

2022年度第4四半期および通期決算説明会 補足資料

2023年2月14日

楽天グループ株式会社



1 連結業績

Q4/22 主要KPI (前年同期比)

グローバル流通総額

+21.3%

10.0兆円



国内EC流通総額

+13.6%

1.7兆円



連結売上収益

+17.0%

5,632億円



Non-GAAP営業利益

(モバイルセグメント・投資事業除き)

+13.6%

495億円



楽天カード
ショッピング取扱高

+21.7%

5.1兆円



楽天カード発行枚数

+11.9%

2,808万枚



楽天証券総合口座数

+21.1%

864万口座



楽天銀行口座数

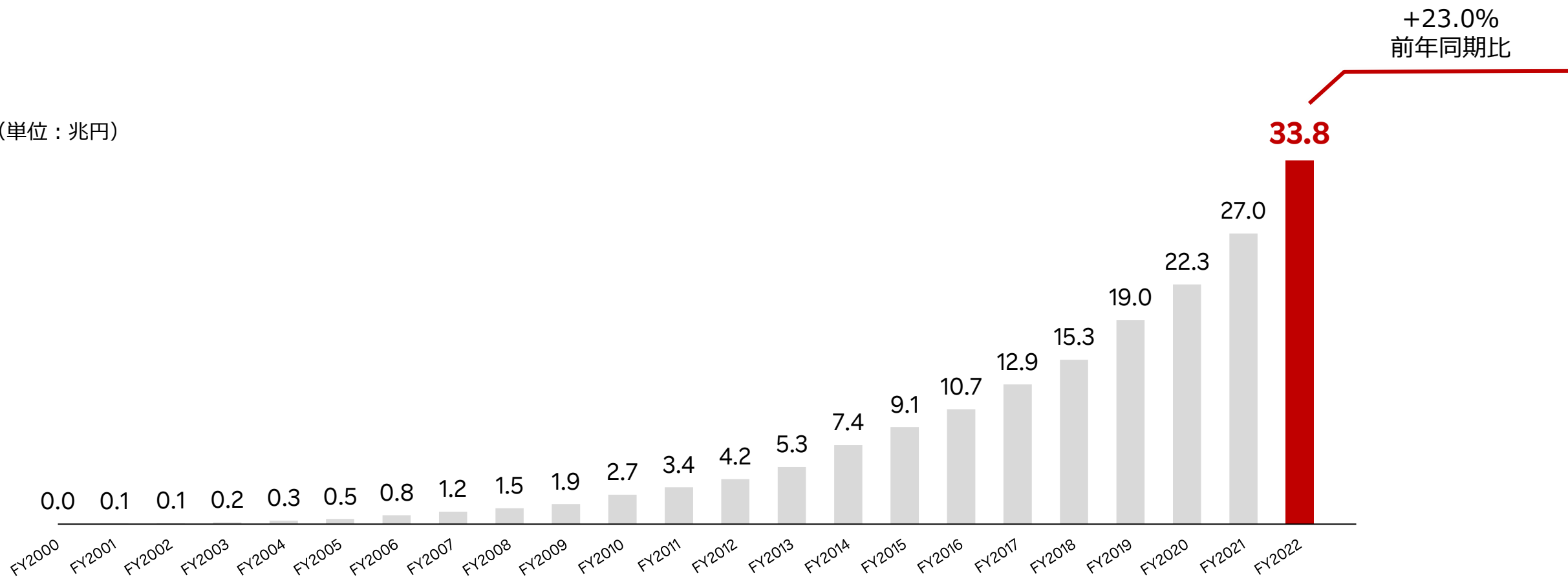
+13.3%

1,339万口座



FY2022 グローバル流通総額*1*2

(単位：兆円)

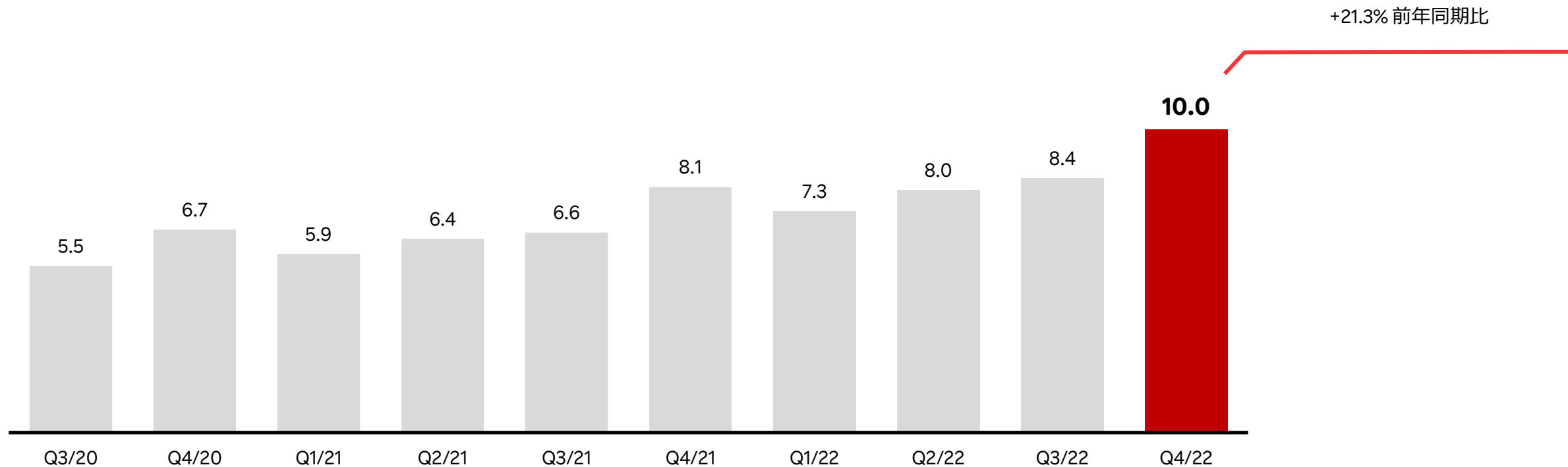


*1 グローバル流通総額 = 国内EC流通総額 + クレジットカードショッピング取扱高 + 楽天Edy決済取扱高 + 楽天ペイ決済取扱高 + 楽天ポイントカード取扱高 + 海外EC流通総額 + Rakuten Rewards (Ebates) 流通総額 + デジタルコンテンツ取扱高 + Rakuten Advertising (Rakuten Marketing) 取扱高。

*2 決済・アフィリエイトサービスには、楽天グループ内取引を含む。

Q4/22 グローバル流通総額*1*2

(単位：兆円)



*1グローバル流通総額 = 国内EC流通総額 + クレジットカードショッピング取扱高 + 楽天Edy決済取扱高 + 楽天ペイ決済取扱高 + 楽天ポイントカード取扱高 + 海外EC流通総額 + Rakuten Rewards (Ebates) 流通総額 + デジタルコンテンツ取扱高 + Rakuten Advertising (Rakuten Marketing) 取扱高。

*2決済・アフィリエイトサービスには、楽天グループ内取引を含む。

FY2022 連結業績サマリー

(単位：十億円)

	FY2021	FY2022	前年同期比
売上収益	1,681.8	1,927.9	+14.6%
Non-GAAP 営業利益	-225.0	-325.6	-100.6
IFRS 営業利益	-194.7	-363.9	-169.2

Q4/22 連結業績サマリー

(単位：十億円)

	Q4/21	Q4/22	前年同期比
売上収益	481.2	563.2	+17.0%
Non-GAAP 営業利益	-76.1	-69.7	+6.5
IFRS 営業利益	-86.4	-76.8	+9.6

FY2022 売上収益と営業利益*1*2

(単位：十億円)

		FY2021	FY2022	前年同期比
国内EC	売上収益	707.7	797.0	+12.6%
	営業利益	70.0	95.6	+36.6%
その他	売上収益	291.5	288.9	-0.9%
	営業利益	33.3	-17.4	-50.7%
インターネットサービスセグメント				
	売上収益	999.2	1,085.9	+8.7%
	営業利益	103.4	78.2	-24.3%
フィンテックセグメント				
	売上収益	619.0	663.4	+7.2%
	営業利益	89.1	98.7	+10.8%
モバイルセグメント				
	売上収益	227.5	368.7	+62.0%
	営業利益	-421.2	-492.8	-71.7%
調整額				
	売上収益	-164.0	-190.1	-26.1%
	営業利益	3.7	-9.7	-13.4%
連結				
	売上収益	1,681.8	1,927.9	+14.6%
	Non-GAAP 営業利益	-225.0	-325.6	-100.6%
	IFRS 営業利益	-194.7	-363.9	-169.2%

*1 Q4/20に、コンテンツ関連事業をインターネットサービスセグメントからモバイルセグメントに移管。更に、Q2/21より、北米地域でデジタルコンテンツサイト等の運営を行う一部の事業及びViber等、一部の事業をモバイルセグメントからインターネットサービスセグメントに移管。また、Q4/21より、ブックネットワーク、クロスボーダートレーディング、Kobo（国内）、楽天マガジンをその他セグメントから国内ECに移管。これに伴い、遡及修正を実施。

*2 Q2/22にて楽天市場で売上計上されていたカード会員獲得ポイントの処理方法について、楽天市場にて計上していたものを連結調整計上に移管し、過去分についても遡及修正を実施。

Q4/22 売上収益と営業利益*1*2

(単位：十億円)

		Q4/21	Q4/22	前年同期比
国内EC	売上収益	205.5	229.2	+11.5%
	営業利益	23.8	29.0	+21.8%
その他	売上収益	94.6	91.3	-3.4%
	営業利益	-0.7	-9.2	-8.5%
インターネットサービスセグメント				
	売上収益	300.1	320.4	+6.8%
	営業利益	23.1	19.8	-14.3%
フィンテックセグメント				
	売上収益	163.5	176.1	+7.7%
	営業利益	20.9	24.3	+16.4%
モバイルセグメント				
	売上収益	65.3	114.4	+75.2%
	営業利益	-118.7	-112.6	+6.0%
調整額				
	売上収益	-47.7	-47.8	-0.1%
	営業利益	-1.5	-1.1	+0.3%
連結				
	売上収益	481.2	563.2	+17.0%
	Non-GAAP 営業利益	-76.1	-69.7	+6.5%
	IFRS 営業利益	-86.4	-76.8	+9.6%

*1 Q4/20に、コンテンツ関連事業をインターネットサービスセグメントからモバイルセグメントに移管。更に、Q2/21より、北米地域でデジタルコンテンツサイト等の運営を行う一部の事業及びViber等、一部の事業をモバイルセグメントからインターネットサービスセグメントに移管。また、Q4/21より、ブックスネットワーク、クロスボーダートレーディング、Kobo（国内）、楽天マガジンをその他セグメントから国内ECに移管。これに伴い、遡及修正を実施。

*2 Q2/22にて楽天市場で売上計上されていたカード会員獲得ポイントの処理方法について、楽天市場にて計上していたものを連結調整計上に移管し、過去分についても遡及修正を実施。

FY2022 Non-GAAP營業利益調整額

(單位：十億円)

	FY2021	FY2022	前年同期比
Non-GAAP營業利益	-225.0	-325.6	-100.6
無形資産償却費 (PPA)	-9.3	-10.5	-1.2
株式報酬費用	-10.1	-12.6	-2.5
非經常的な項目	49.7	-15.2	-64.8
IFRS營業利益	-194.7	-363.9	-169.2

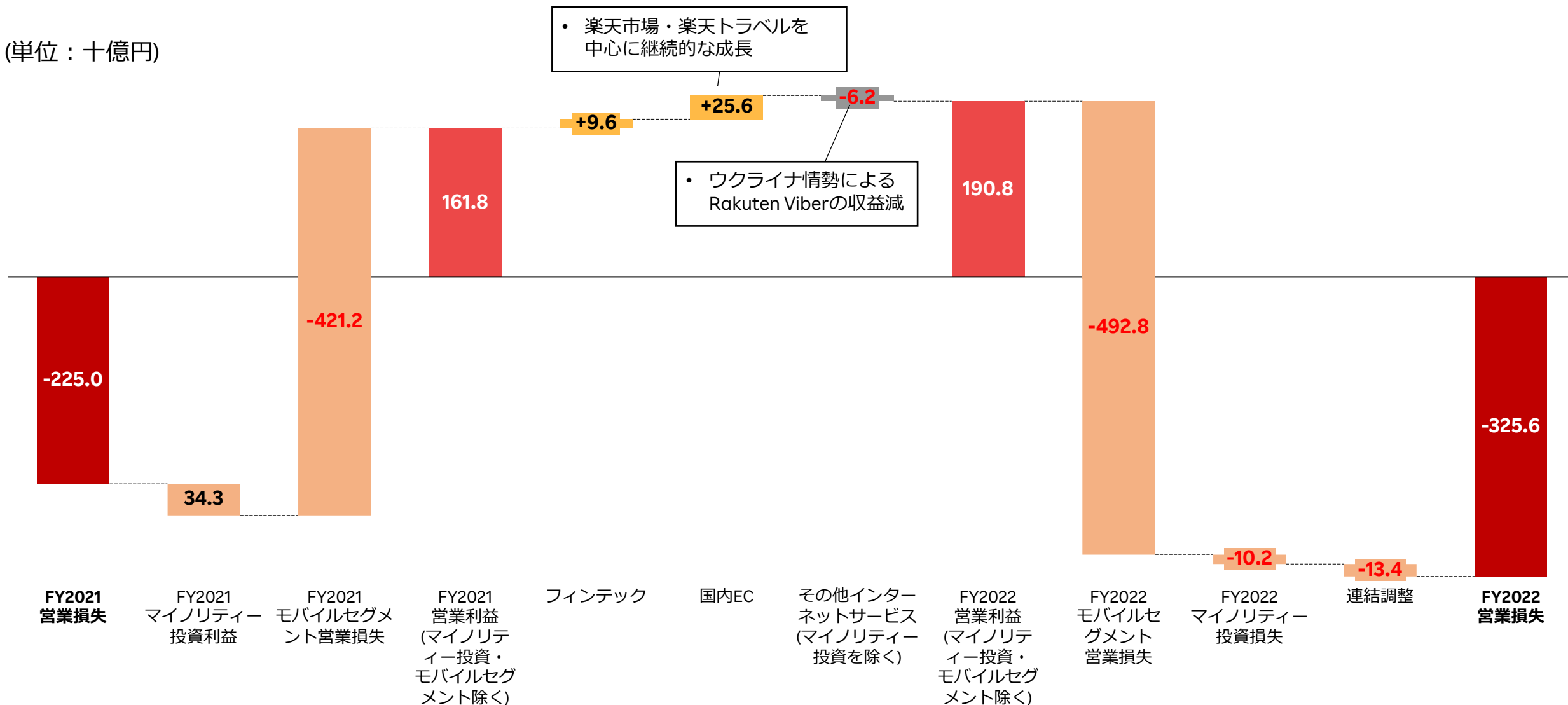
Q4/22 Non-GAAP營業利益調整額

(單位：十億円)

	Q4/21	Q4/22	前年同期比
Non-GAAP營業利益	-76.1	-69.7	+6.5
無形資産償却費 (PPA)	-3.7	-3.3	+0.4
株式報酬費用	-2.3	-3.1	-0.7
非經常的な項目	-4.2	-0.8	+3.4
IFRS營業利益	-86.4	-76.8	+9.6

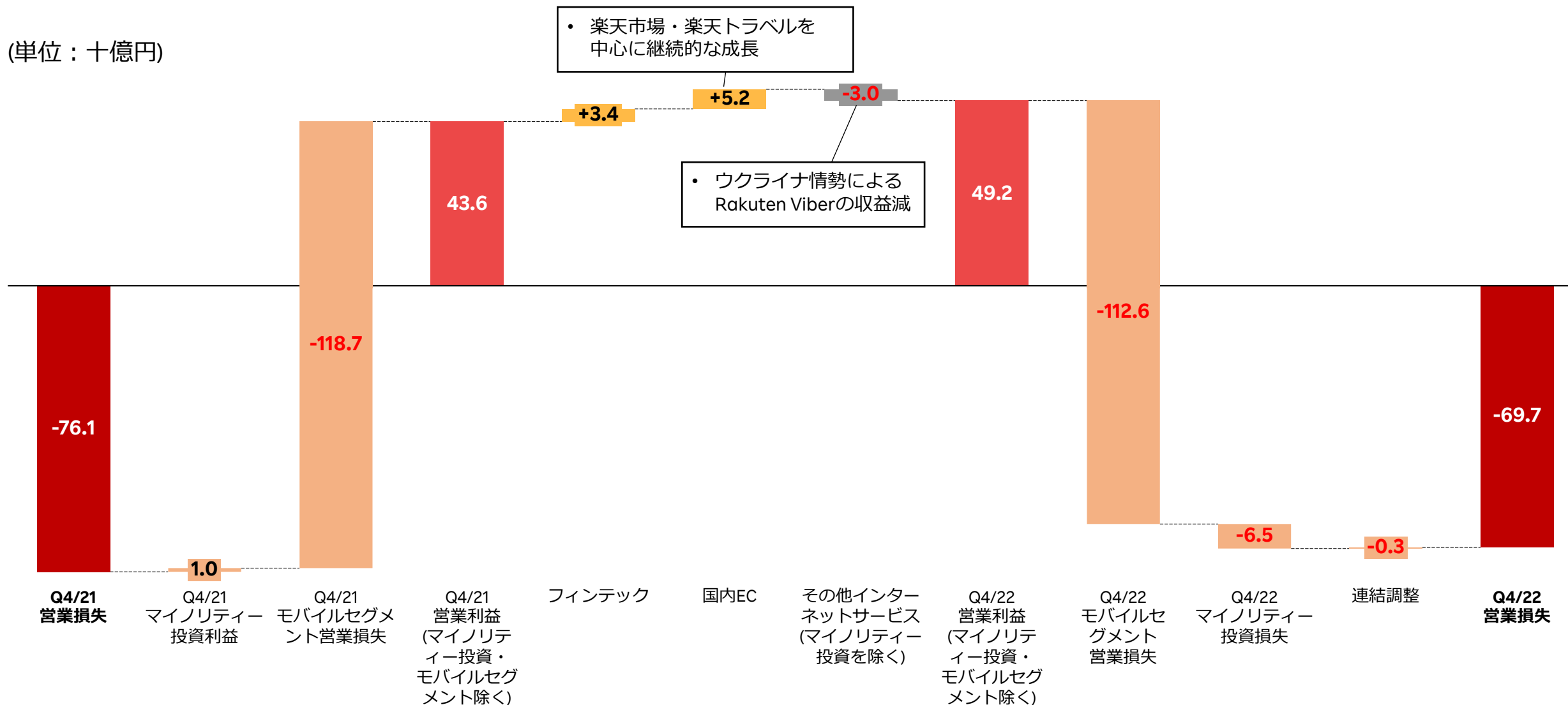
FY2022 Non-GAAP 営業利益詳細

(単位：十億円)



Q4/22 Non-GAAP 営業利益詳細

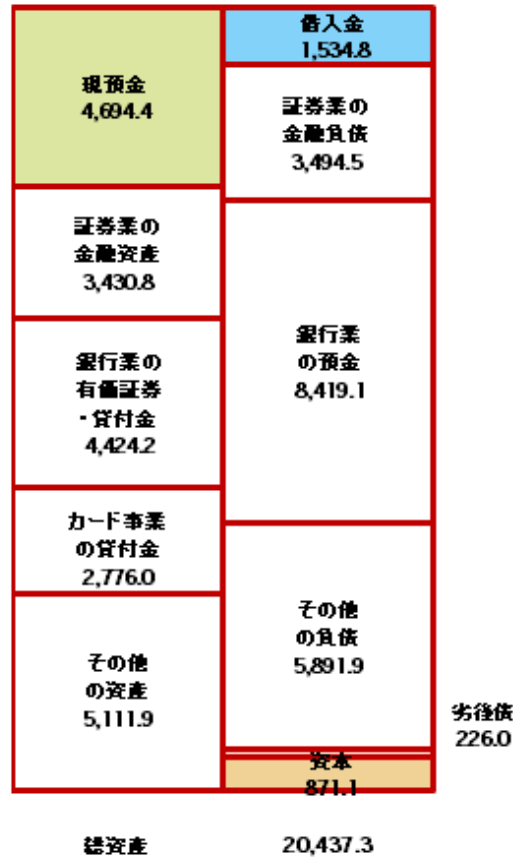
(単位：十億円)



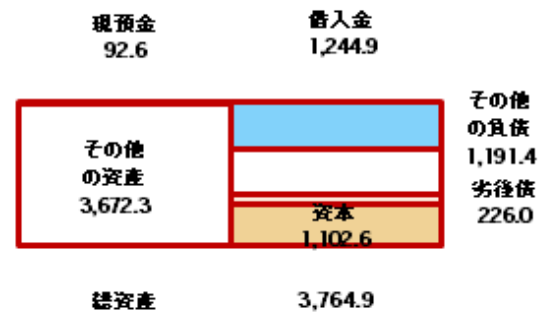
連結・主要子会社のバランスシート概要①(2022年12月末) *1*2

(単体BSは内部取引を含む)

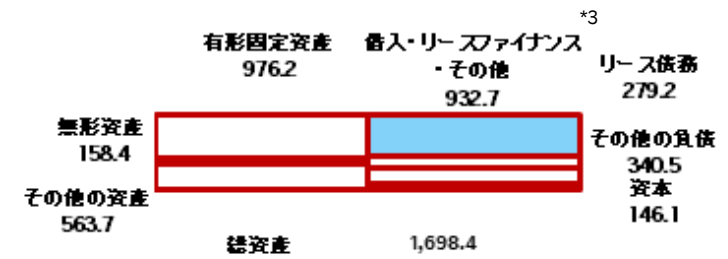
(単位：十億円)



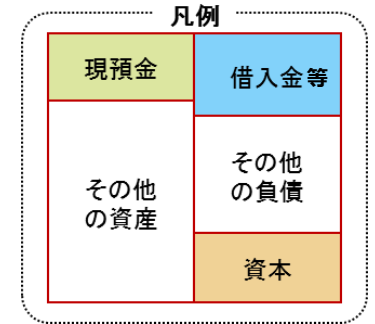
連結



楽天グループ(株)



楽天モバイル



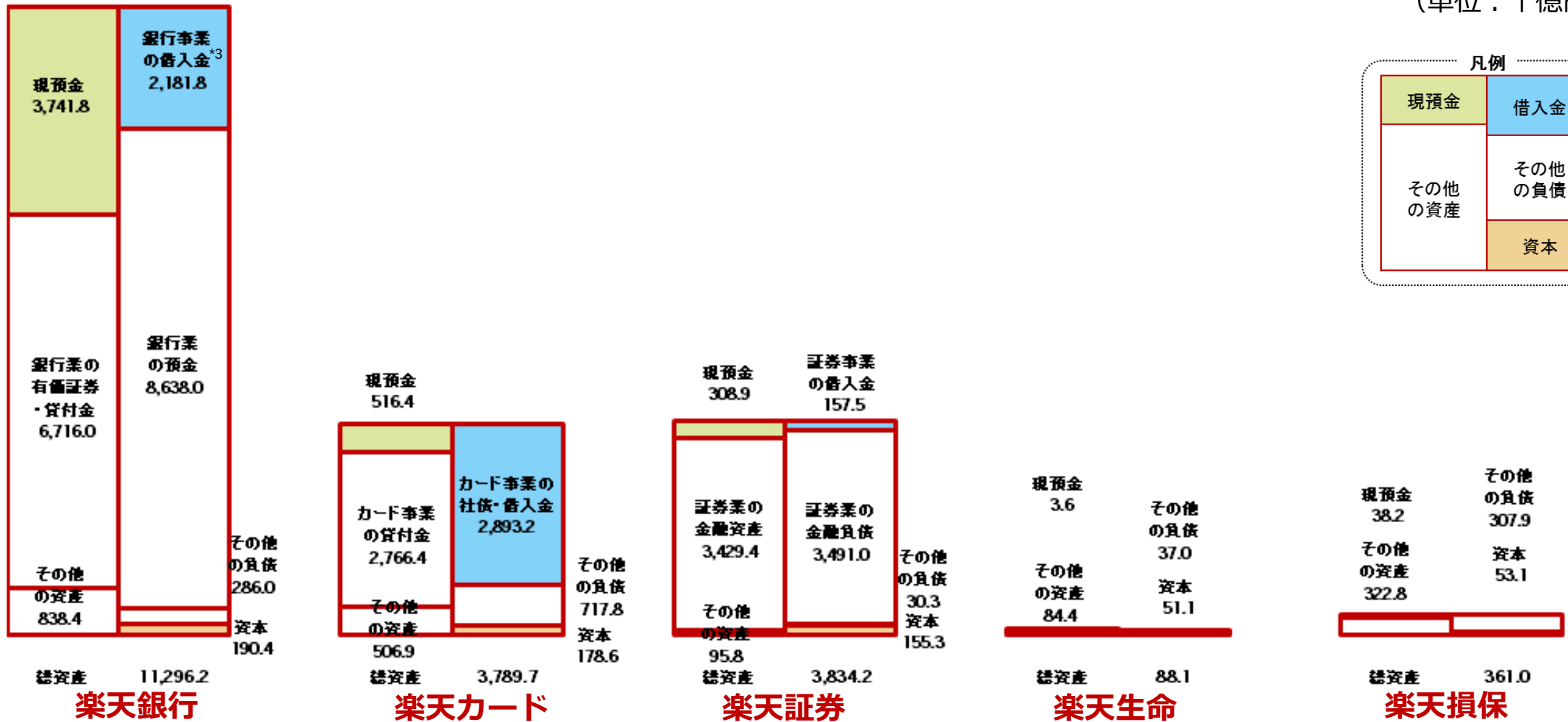
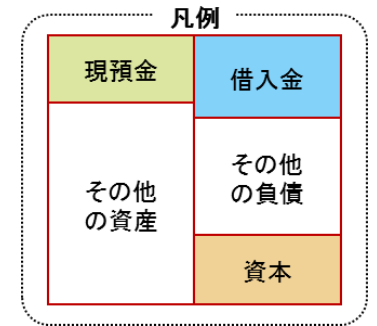
*1 楽天グループ(株)、楽天銀行、楽天カード、楽天証券、楽天生命、楽天損保、楽天モバイルはIFRSに準拠した単独決算の数値。

*2 借入金は、普通社債、CP、銀行借入金等を含む。

*3 主にリースファイナンス及び親会社からの借り入れによる負債を計上。

連結・主要子会社のバランスシート概要②(2022年12月末) *1*2 (単体BSは内部取引を含む)

(単位：十億円)



*1 楽天グループ(株)、楽天銀行、楽天カード、楽天証券、楽天生命、楽天損保、楽天モバイルはIFRSに準拠した単独決算の数値。

*2 借入金は、普通社債、CP、銀行借入金等を含む。

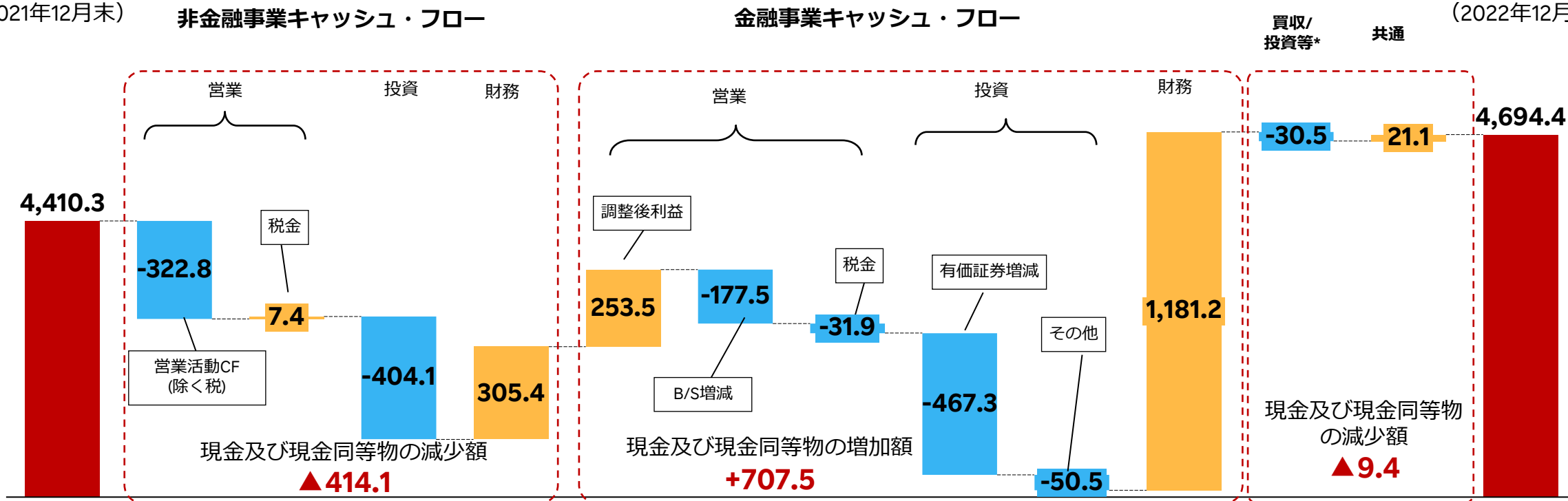
*3 銀行事業の借入金は、主に適格担保による日本銀行からの借入。台湾における現地合併会社（楽天国際商業銀行股份有限公司）は、上記に含まない。

キャッシュ・フローの状況（2022年1月 - 12月）

(単位：十億円)

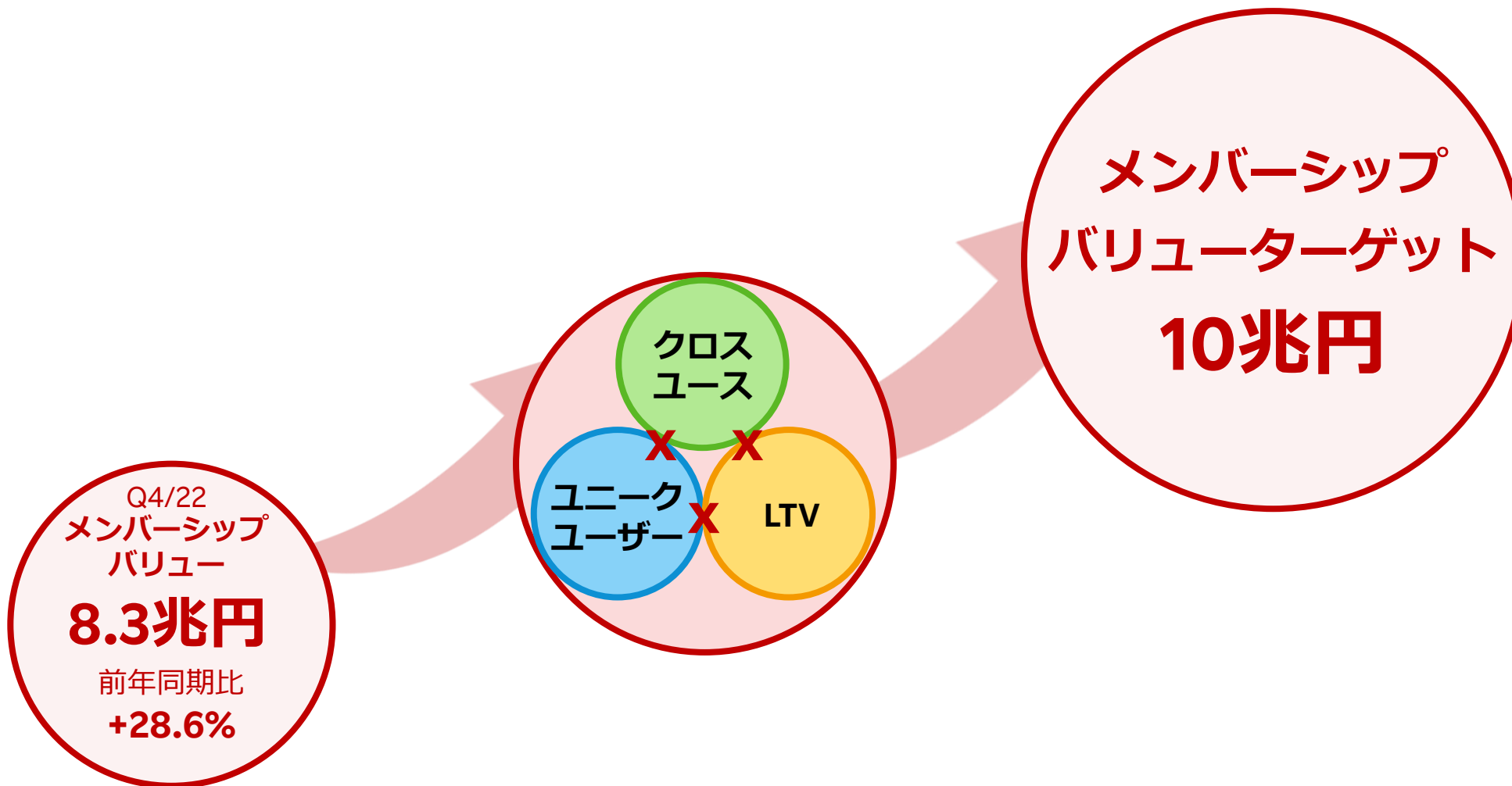
期首現預金残高
(2021年12月末)

期末現預金残高
(2022年12月末)



*買収/投資等には、「子会社の取得による支出」及び「持分法投資の取得による支出」の他、非金融における「有価証券の取得による支出」及び「有価証券の売却及び償還による収入」が含まれる。

楽天エコシステムの超拡大*

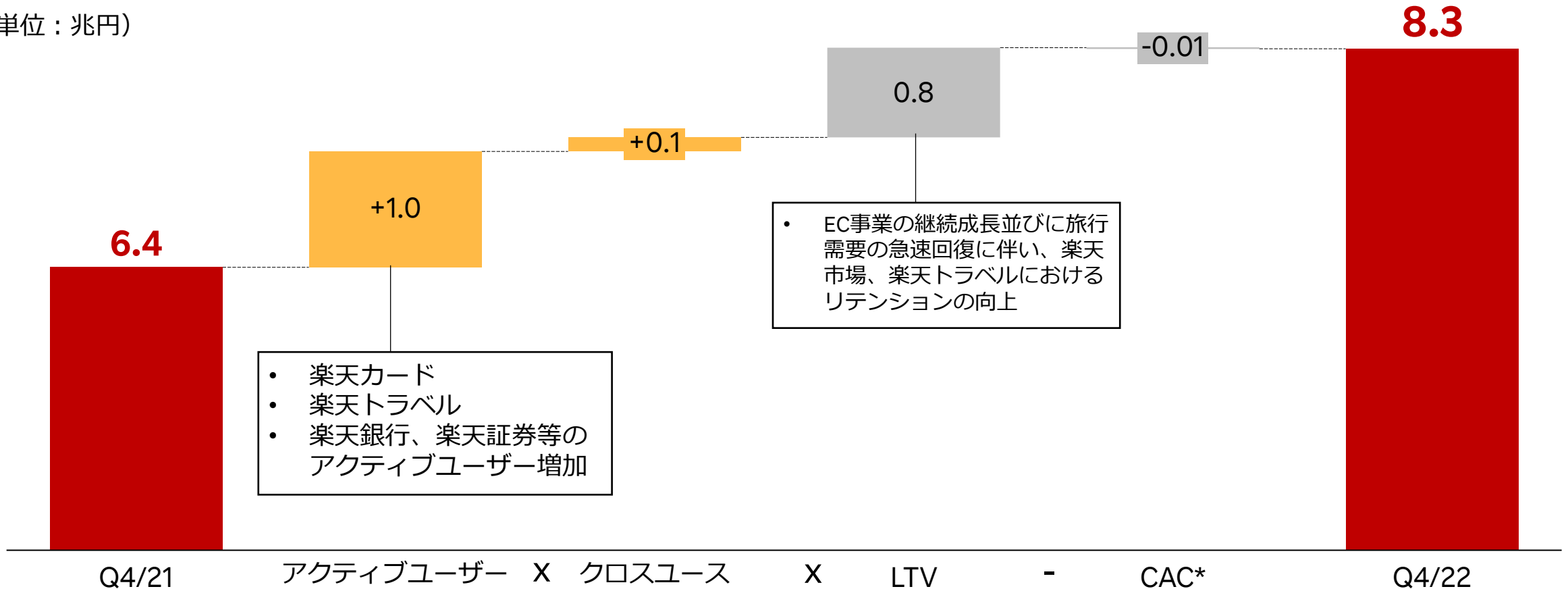


*モバイル事業は上記計算に含めない。

楽天エコシステムのメンバーシップバリュー

- 前四半期に続き、EC事業の継続成長並びに旅行需要の急速回復に伴い、楽天市場、楽天トラベルにおけるアクティブユーザー数の増加及びリテンションの向上が全体の伸び率に寄与し、楽天エコシステム内のクロスユースも堅調に推移を実現

(単位：兆円)

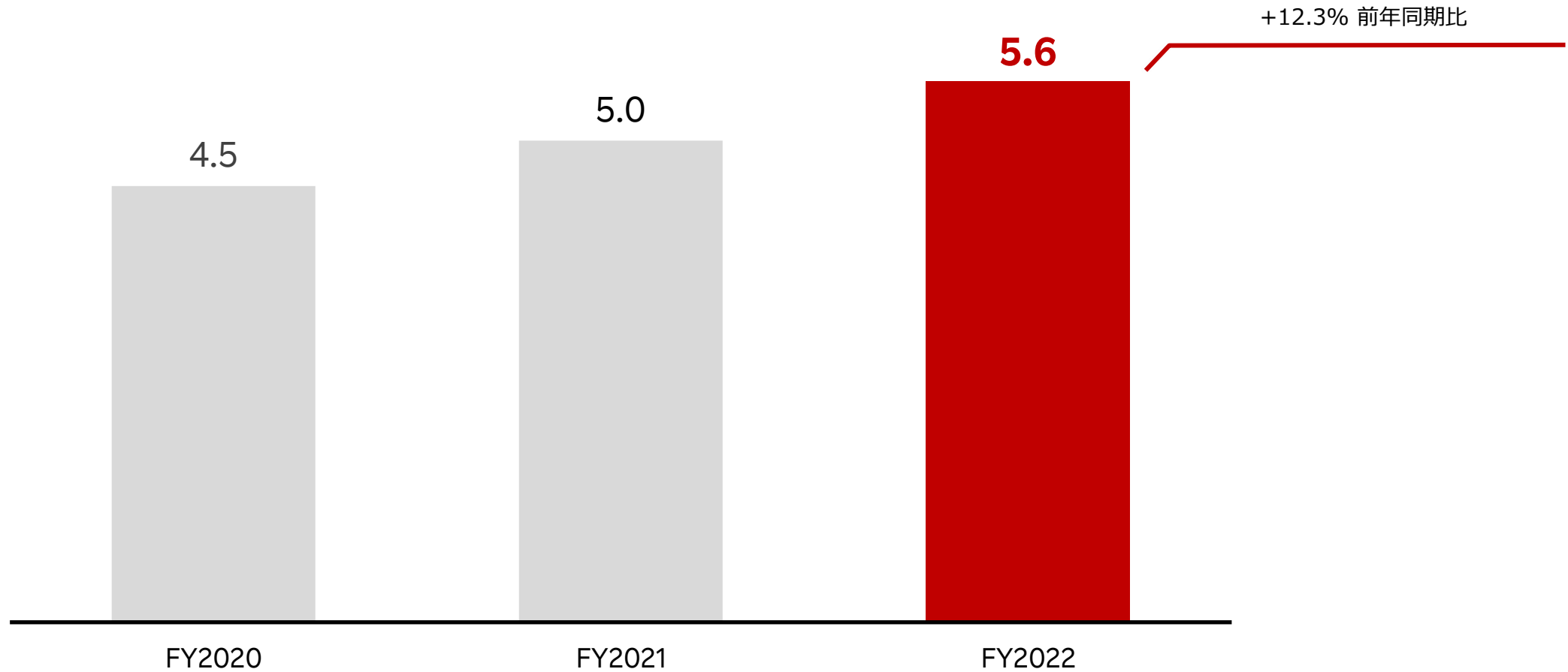


* CAC = Customer Acquisition Cost (顧客獲得コスト)

2 インターネットサービス

国内EC 流通総額*1*2

(単位：兆円)

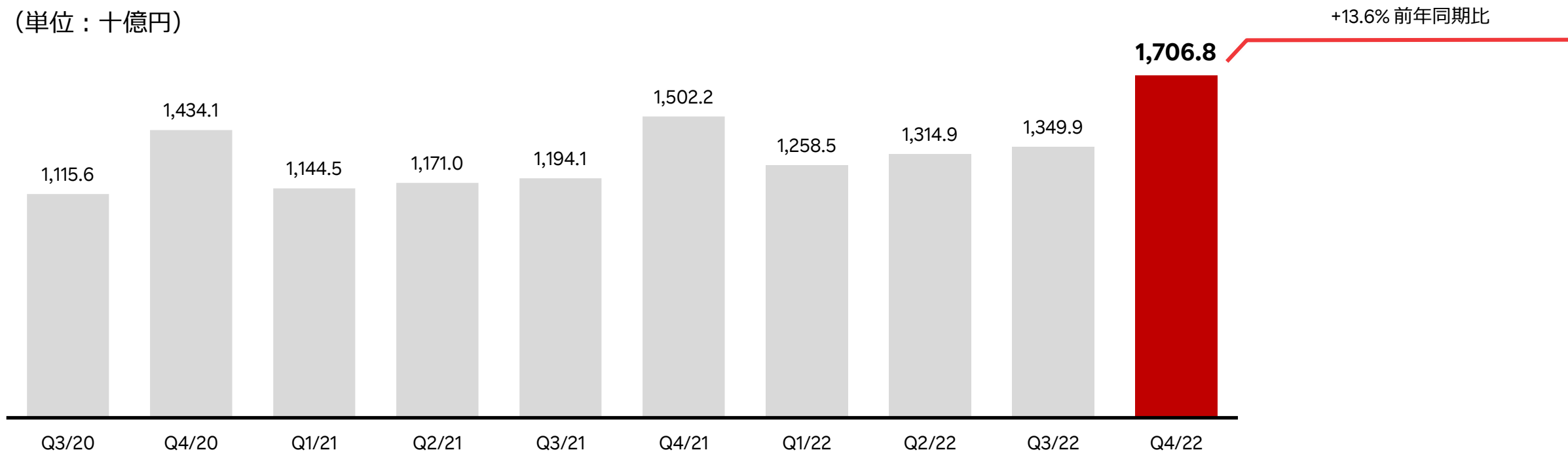


*1 国内EC流通総額（一部の非課税ビジネスを除き、消費税込み）＝市場、トラベル（宿泊流通）、ブックス、ブックスネットワーク、Kobo（国内）、ゴルフ、ファッション、ドリームビジネス、ビューティ、Rakuten24などの日用品直販、Car、ラクマ、Rebates、楽天西友ネットスーパー、クロスボーダートレーディング等の流通額の合計

*2 Q4/21より、国内EC流通総額にブックスネットワーク、クロスボーダートレーディング、Kobo（国内）を追加。これに伴い、遡及修正を実施。

国内EC流通総額*1*2

(単位：十億円)



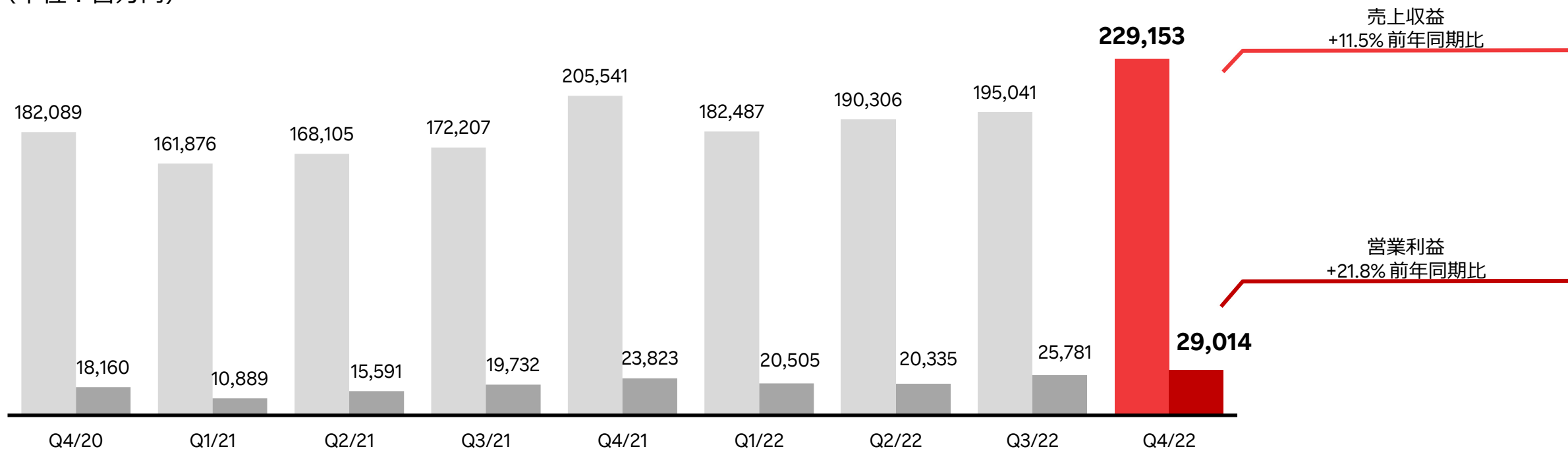
*1 国内EC流通総額（一部の非課税ビジネスを除き、消費税込み）＝市場、トラベル（宿泊流通）、ブックス、ブックスネットワーク、Kobo（国内）、ゴルフ、ファッション、ドリームビジネス、ビューティ、Rakuten24などの日用品直販、Car、ラクマ、Rebates、楽天西友ネットスーパー、クロスボーダートレーディング等の流通額の合計

*2 Q4/21より、国内EC流通総額にブックスネットワーク、クロスボーダートレーディング、Kobo（国内）を追加。これに伴い、遡及修正を実施。

国内EC 四半期業績推移*1*2

楽天市場を中心としたEC事業の継続的な成長により、売上収益、営業利益ともに、順調に拡大

(単位：百万円)

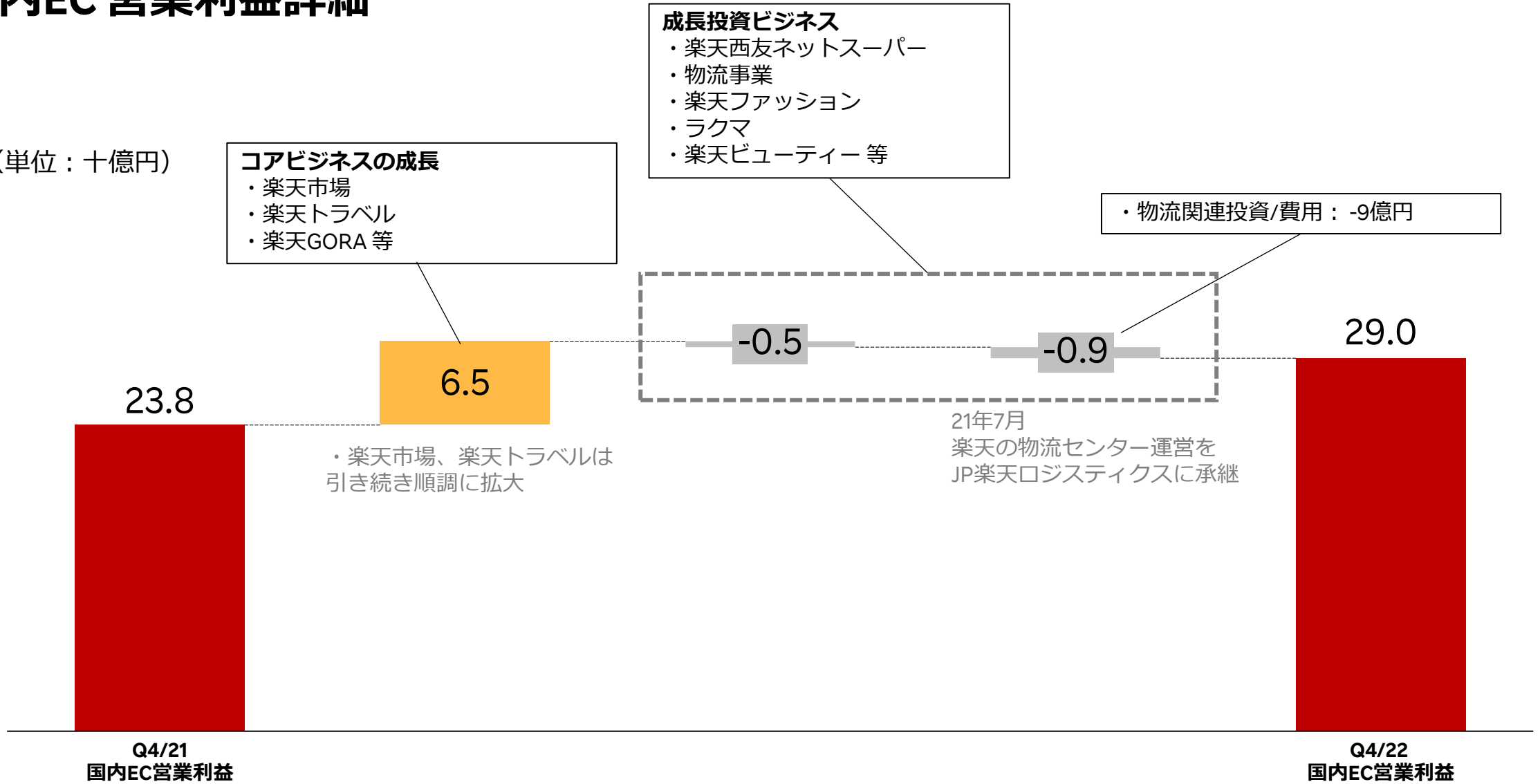


*1国内EC=市場、トラベル、ブックス、ブックスネットワーク、ゴルフ、ファッション、ドリーム、ビューティ、Rakuten24などの日用品直販、物流、Car、ラクマ、Rebates、楽天西友ネットスーパー、クロスボーダートレーディング等。

*2 Q4/21より、ブックスネットワーク、クロスボーダートレーディング、Kobo（国内）、楽天マガジンをその他セグメントから国内ECセグメントに移管。これに伴い、遡及修正を実施。

国内EC 営業利益詳細*

(単位：十億円)

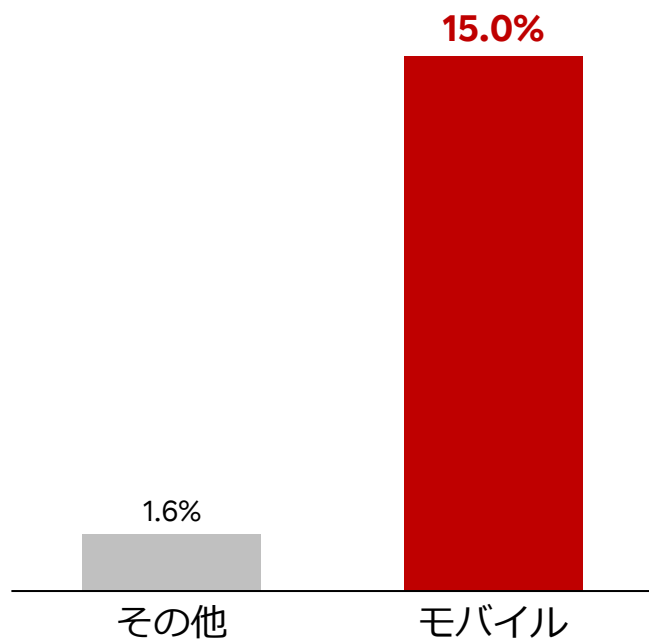


*Q4/21より、ブックネットワーク、クロスボーダートレーディング、Kobo（国内）、楽天マガジンをその他セグメントから国内ECセグメントに移管。これに伴い、遡及修正を実施。

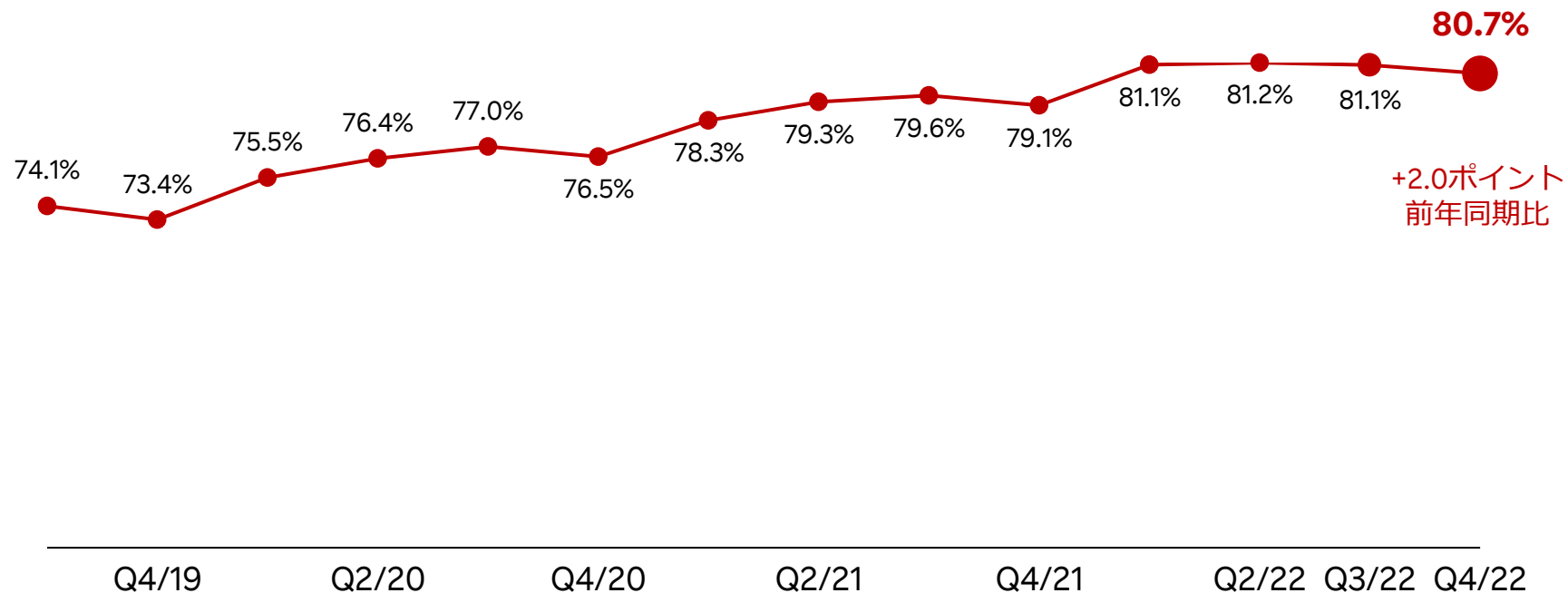
Q4/22 楽天市場モバイル流通総額の成長と比率*

- スマートフォン及びタブレット経由での楽天市場流通総額（モバイル流通総額）の成長率は、WEBブラウザ（Google Chromeなど）及び楽天市場アプリ経由の流通総額（その他流通総額）の成長率と比較しても圧倒的な成長（モバイル流通総額：15.0%）を実現
- また、モバイル流通総額の楽天市場全体流通総額における比率*は、年々増加

流通総額3年CAGR
(Q4/20-Q4/22)



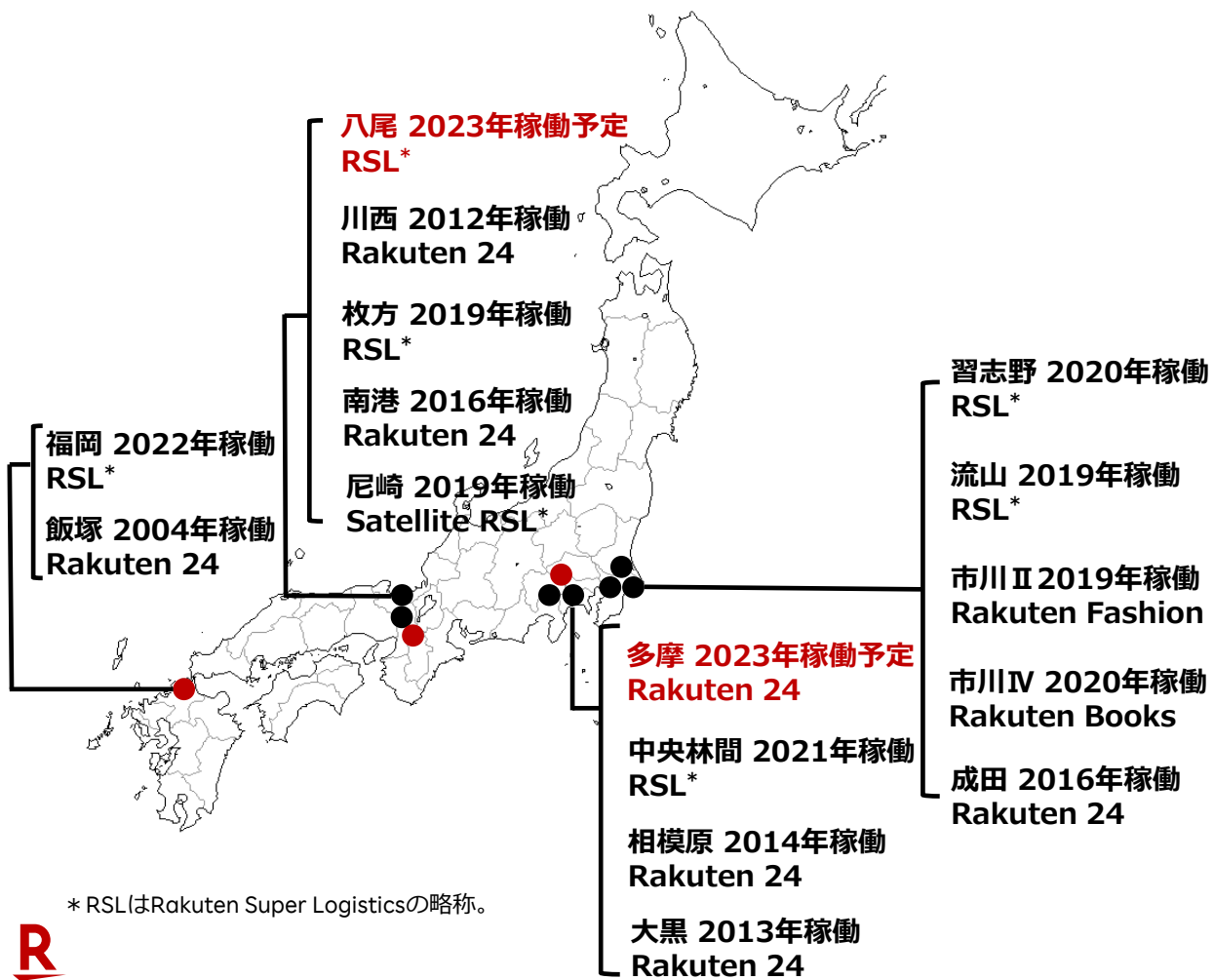
モバイル流通総額比率*



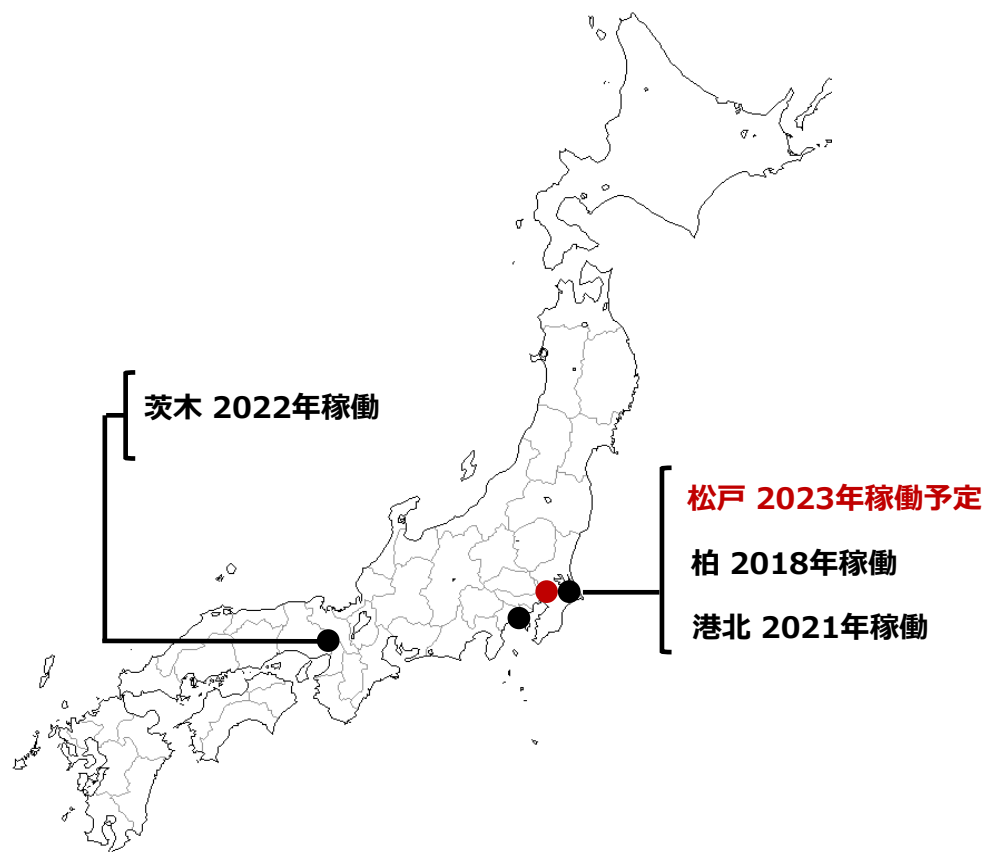
* モバイル流通総額比率 = 楽天市場モバイル流通総額 / 楽天市場流通総額合計 (スマートフォン、タブレットを含む)。

物流拠点一覧

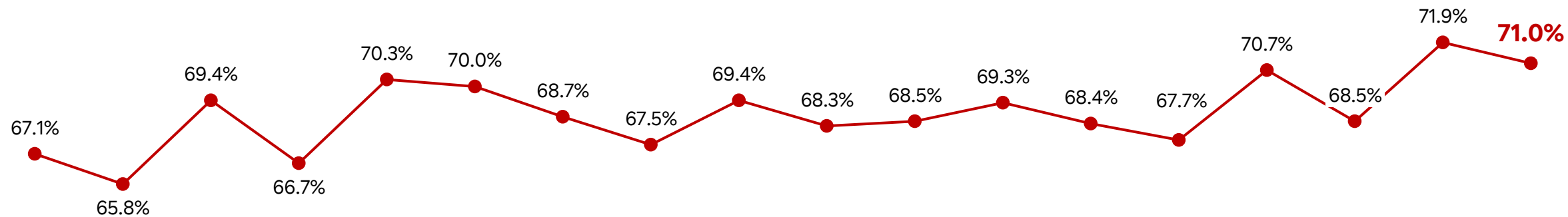
JP楽天ロジスティクス



楽天西友ネットスーパー物流センター



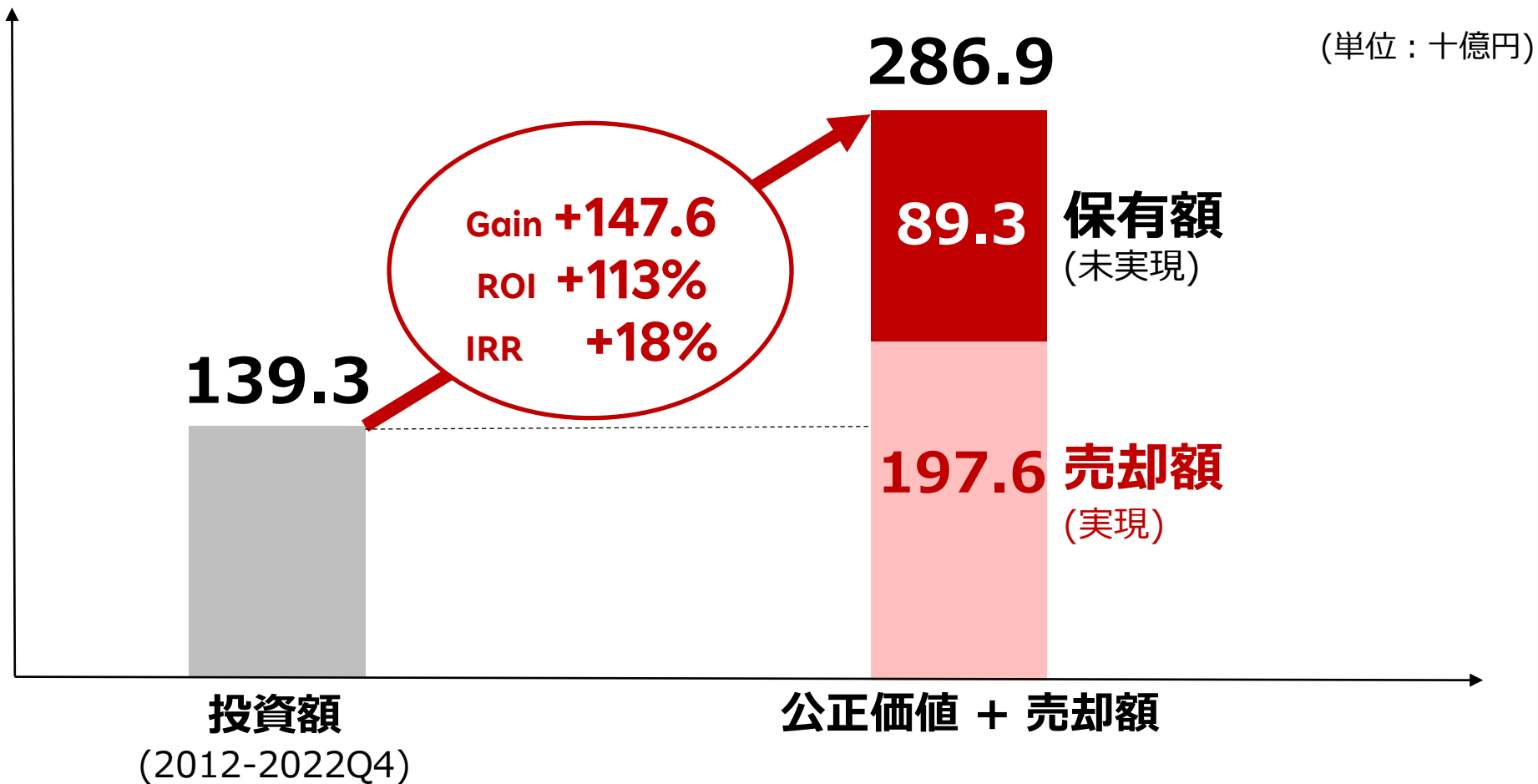
楽天市場流通総額における楽天カード決済比率



21/7月 21/8月 21/9月 21/10月 21/11月 21/12月 22/1月 22/2月 22/3月 22/4月 22/5月 22/6月 22/7月 22/8月 22/9月 22/10月 22/11月 22/12月

楽天キャピタル*1 投資パフォーマンス

楽天キャピタル 投資パフォーマンス (2022年12月末時点)*2



*1 楽天グループ 投資事業 (楽天キャピタル)

*2 Lyft・楽天メディカル等、楽天キャピタル以外のマイノリティー投資を除く。

マイノリティー投資ポートフォリオ

保有

売却済*1

楽天キャピタル以外*2

投資件数*3 :

47

37

2

インターネット



dataX



サステナビリティ



ライドシェアリング



フィンテック



モバイル/AI



ヘルスケア

airweave



その他



*1 2015年以降売却分、件数は一部売却を除く。

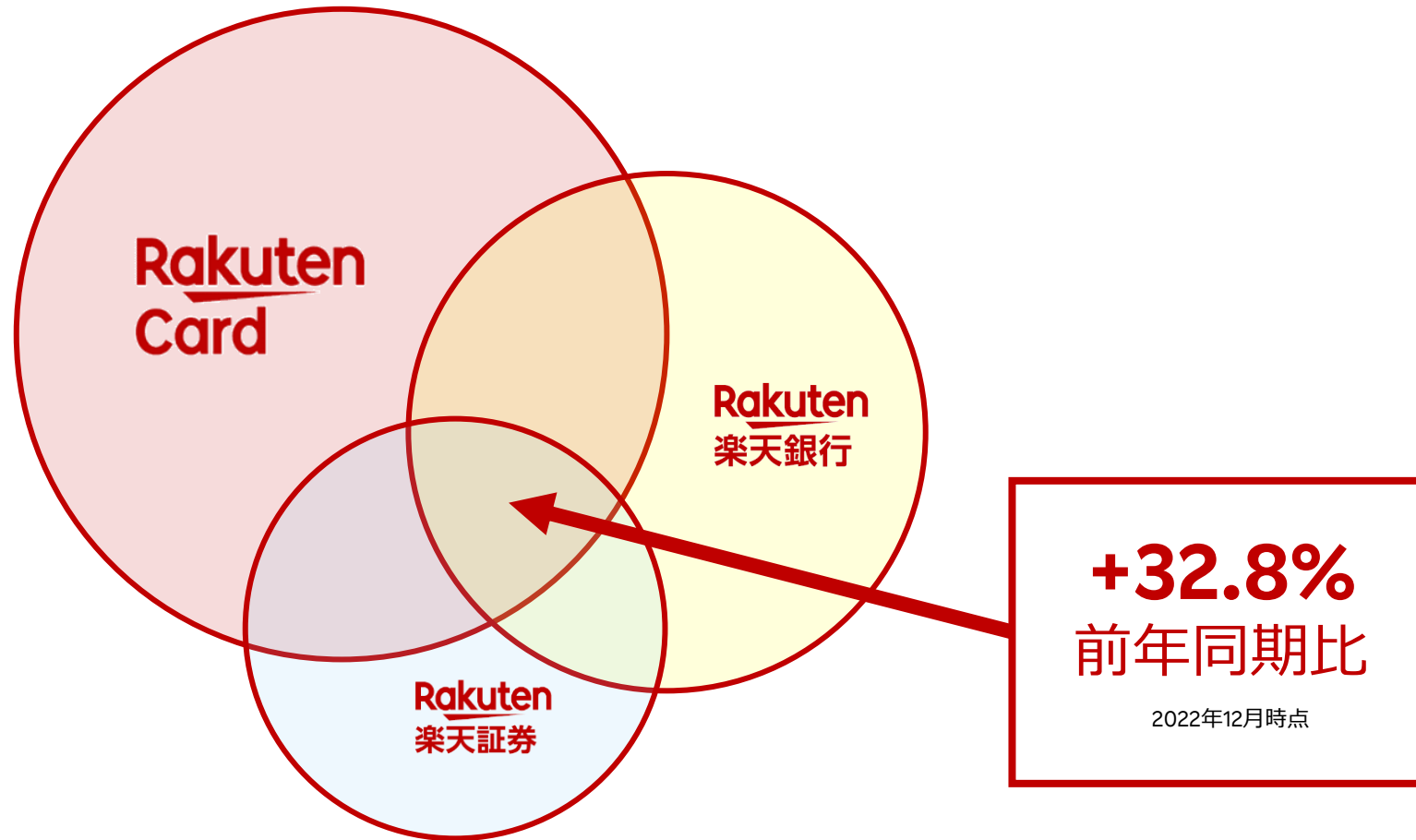
*2 Lyftと楽天メディカルは、楽天キャピタルから他ビジネスへ移管。

*3 投資件数はQ4/22時点の楽天キャピタルの投資に限定。

3 ファイנטック

フィンテック各社のクロスユース例

「楽天カード」×「楽天銀行」×「楽天証券」
ユーザー



FY2022フィンテックセグメント業績サマリー*1*2*3*4

(単位：十億円)

FY2022	売上収益	前年同期比	営業利益	前年同期比
楽天カード	295.6	+5.6%	44.0	+10.9%
楽天銀行	112.2	+9.3%	38.0	+28.5%
証券事業	95.8	+6.5%	18.7	+3.3%
保険事業	99.7	-1.2%	10.0	+10.4%
楽天ペイメント	51.4	+37.3%	-5.1	-0.8
その他	8.5	+5.0%	-7.0	-4.0
フィンテック合計	663.4	+7.2%	98.7	+10.8%

*1 保険事業は、生命保険、損害保険、ペット保険、保険代理店を含む。

*2 楽天ペイメントは、楽天ペイ、楽天Edy、ポイントパートナーを含む。

*3 楽天銀行：Q2/20に台湾における現地合併会社（楽天国際商業銀行股份有限公司）を連結子会社化し、「その他」に含む。

*4 証券事業は、楽天証券単体及び海外子会社を含む。Q4/22に設立された楽天証券HD本社、楽天ウォレット、楽天投信投資顧問は「その他」に含む。

Q4/22 フィンテックセグメント業績サマリー^{*1*2*3*4}

(単位：十億円)

Q4/22	売上収益	前年同期比	営業利益	前年同期比
楽天カード	79.4	+4.4%	9.2	+13.1%
楽天銀行	29.7	+15.9%	11.3	+49.0%
証券事業	24.8	+5.0%	5.4	+22.1%
保険事業	23.9	-4.6%	3.2	+4.9%
楽天ペイメント	16.0	+44.2%	-1.6	-0.3
その他	2.3	+14.0%	-3.1	-2.2
フィンテック合計	176.1	+7.7%	24.3	+16.4%

*1 保険事業は、生命保険、損害保険、ペット保険、保険代理店を含む。

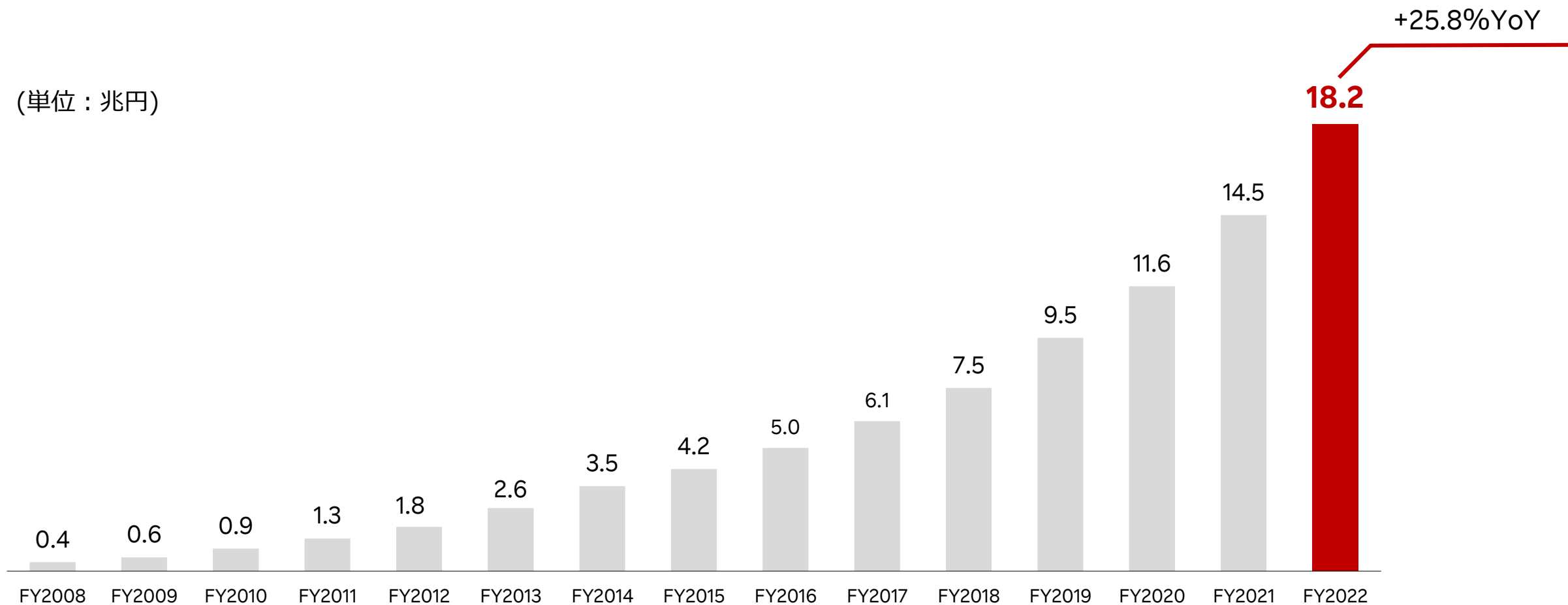
*2 楽天ペイメントは、楽天ペイ、楽天Edy、ポイントパートナーを含む。

*3 楽天銀行：Q2/20に台湾における現地合併会社（楽天国際商業銀行股份有限公司）を連結子会社化し、「その他」に含む。

*4 証券事業は、楽天証券単体及び海外子会社を含む。Q4/22に設立された楽天証券HD本社、楽天ウォレット、楽天投信投資顧問は「その他」に含む。

楽天カード ショッピング取扱高*

(単位：兆円)

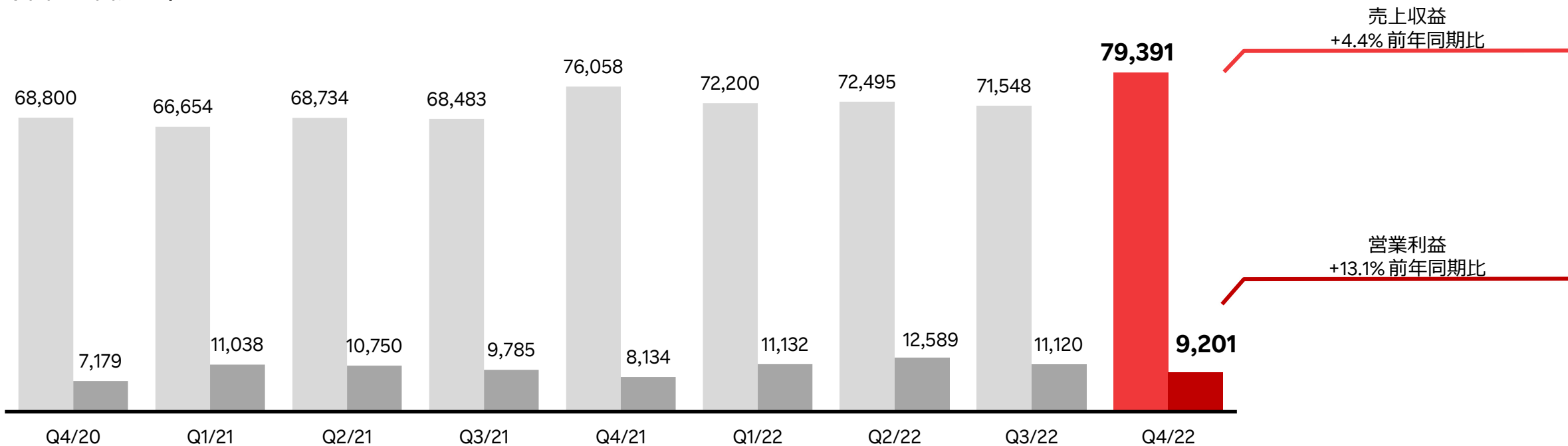


*管理会計ベース。決算データシートとは異なる定義。

楽天カード 四半期業績推移

- オフライン消費の回復が見られたことに加え、コロナ禍で定着したオンライン消費もニーズが継続
- Q4/22におけるリボ収入はYoY1.0%増、期末のリボ残高はYoY1.3%増となり、回復傾向に

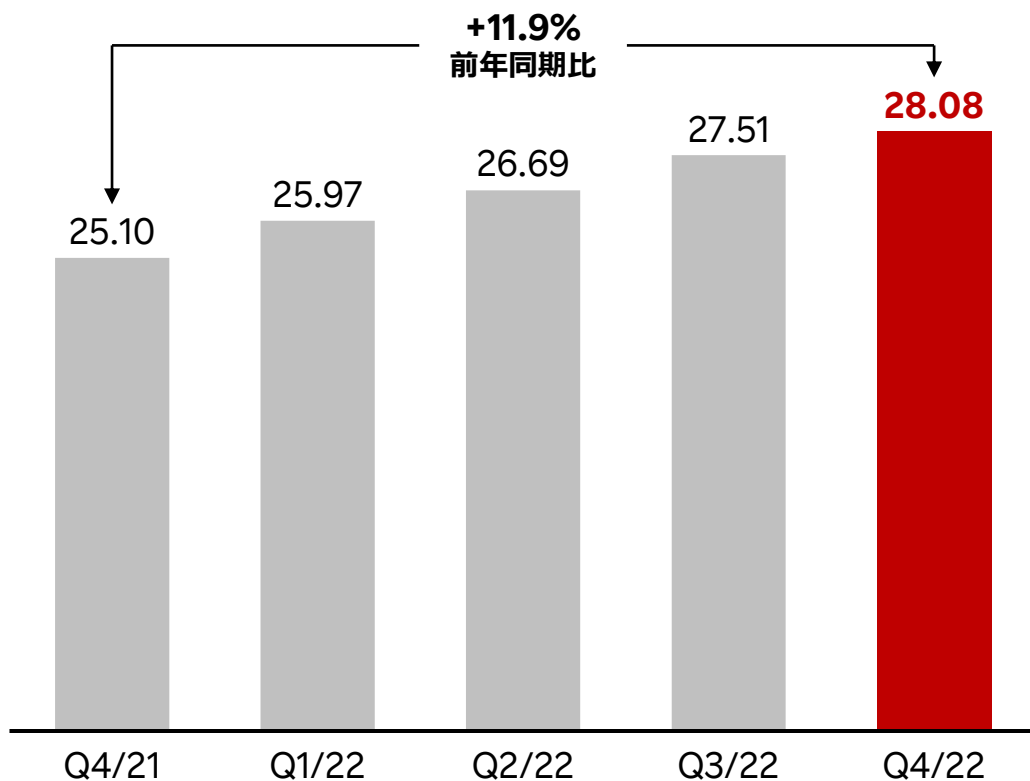
(単位：百万円)



楽天カード 経営指標* (1)

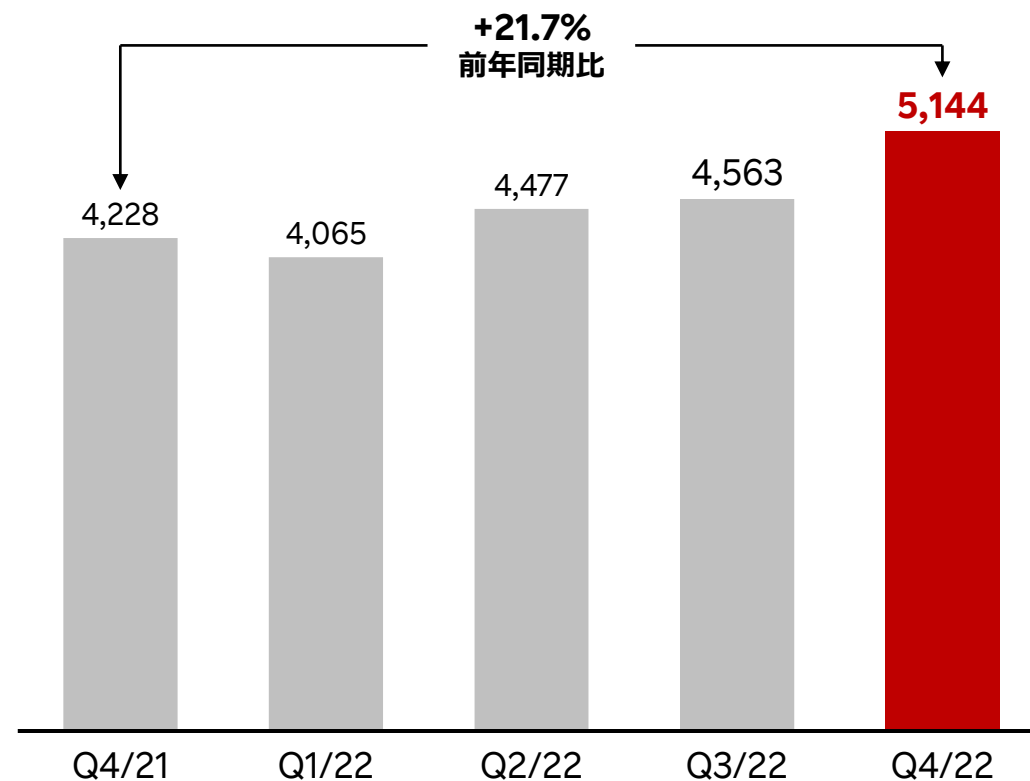
カード発行枚数

(単位：百万枚)



ショッピング取扱高*

(単位：十億円)

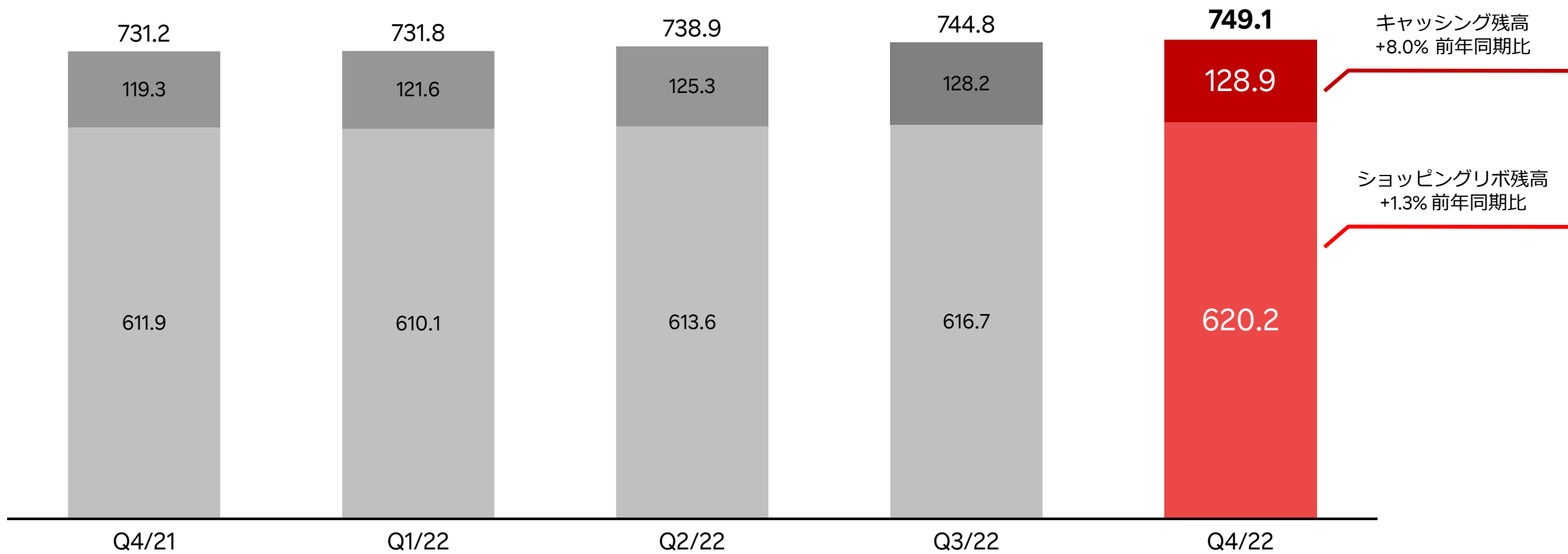


*管理会計ベース。決算データシートとは異なる定義。

楽天カード 経営指標* (2)

ショッピングリボ残高及びキャッシング残高

(単位：十億円)



* 管理会計ベース。補足データ資料とは異なる定義。リボ残高は元本ベース。

楽天カード 貸倒関連比率

(単位：百万円)

	Q4/20	Q1/21	Q2/21	Q3/21	Q4/21	Q1/22	Q2/22	Q3/22	Q4/22	前年同期比
貸倒関連費用	11,789	8,383	9,046	9,110	12,135	7,644	7,592	7,390	11,114	-8.4%
貸倒関連費用比率 ^{*1}	2.03%	1.40%	1.53%	1.52%	1.88%	1.14%	1.14%	1.08%	1.51%	-
楽天カード	2,097,002	2,010,882	2,052,112	2,093,338	2,449,854	2,321,916	2,434,939	2,482,143	2,842,355	+16.0%
ステージ1 (正常)	2,008,991	1,919,540	1,957,075	1,994,727	2,349,481	2,219,197	2,328,727	2,373,007	2,736,235	+16.5%
ステージ2 (未収1～2ヶ月)	12,414	13,554	13,333	14,102	14,512	14,443	14,359	14,727	15,122	+4.2%
ステージ3 (未収3ヶ月以上/貸出条件緩和債権)	75,597	77,788	81,703	84,509	85,860	88,276	91,853	94,410	90,998	+6.0%
楽天銀行保証	347,727	337,924	325,777	315,559	304,827	296,879	287,211	277,956	268,284	-12.0%
ステージ1 (正常/信用保証債務残高 ^{*2})	312,551	303,559	291,724	281,938	272,555	265,169	255,970	248,705	241,123	-11.5%
ステージ2 (遅延30日以上/信用保証債務残高 ^{*2})	114	49	76	100	57	92	57	73	57	-0.7%
ステージ3 (求償債権)	35,062	34,315	33,977	33,522	32,215	31,618	31,184	29,177	27,104	-15.9%
その他	902	866	825	803	743	712	688	666	644	-13.3%
債権残高・保証残高 合計	2,445,632	2,349,672	2,378,714	2,409,699	2,755,423	2,619,507	2,722,839	2,760,766	3,111,283	+12.9%
引当金残高 ^{*3}	94,890	94,047	94,470	95,185	95,560	94,228	94,439	93,479	89,363	-6.5%
貸倒償却額 ^{*4}	13,801	9,229	8,625	8,399	11,761	8,977	7,390	8,351	15,225	+29.4%

*1 貸倒関連費用比率 = 貸倒関連費用 ÷ 債権残高・保証残高合計の期首期末平均 × 4

*2 楽天銀行における楽天銀行スーパーローン残高のうち、楽天カードが信用保証する残高。

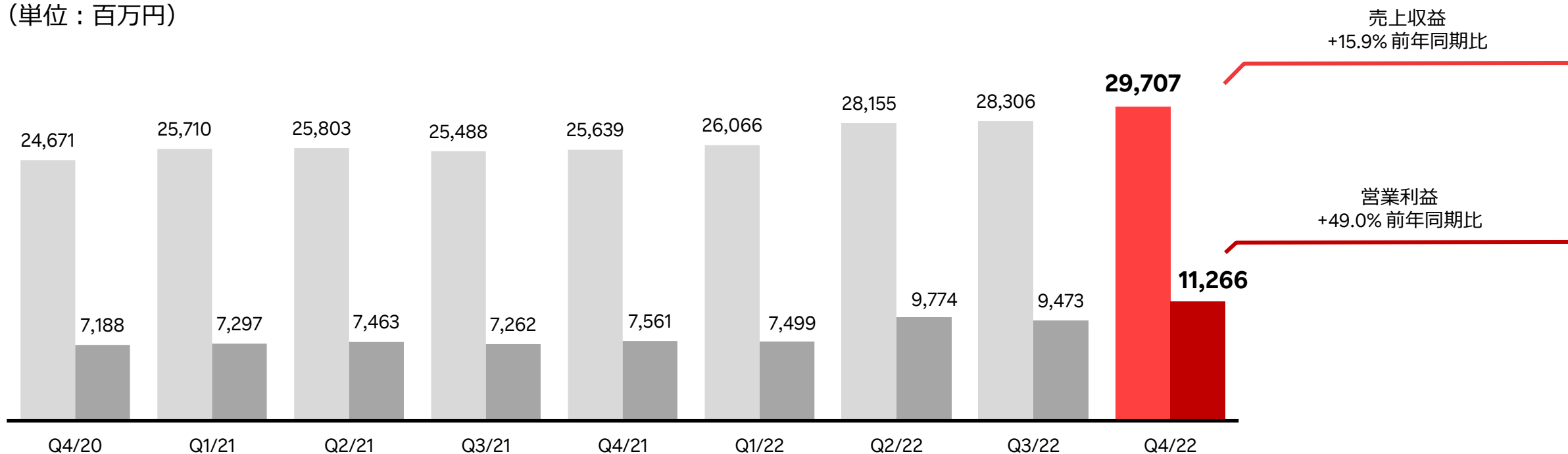
*3 債務保証損失引当額を含む。

*4 貸倒償却には債権譲渡損を含む。

楽天銀行 四半期業績推移*

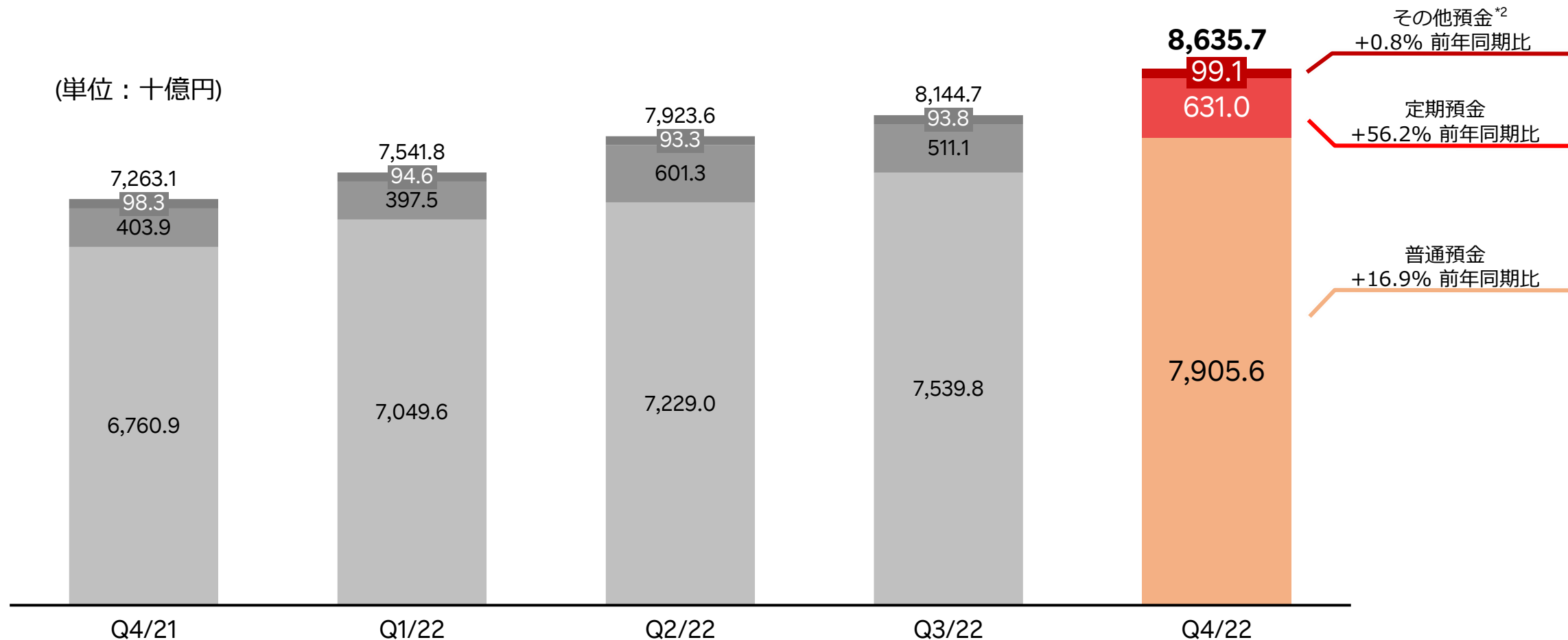
- 売上収益は、順調に業容が拡大し、前年同期比+15.9%増
- 営業利益は、事業規模の拡大により経営効率がさらに向上し、前年同期比+49.0%増

(単位：百万円)



* Q2/20に台湾における現地合併会社（楽天国際商業銀行股份有限公司）を連結子会社化。上記PLには含まない。

楽天銀行 預金残高推移*1

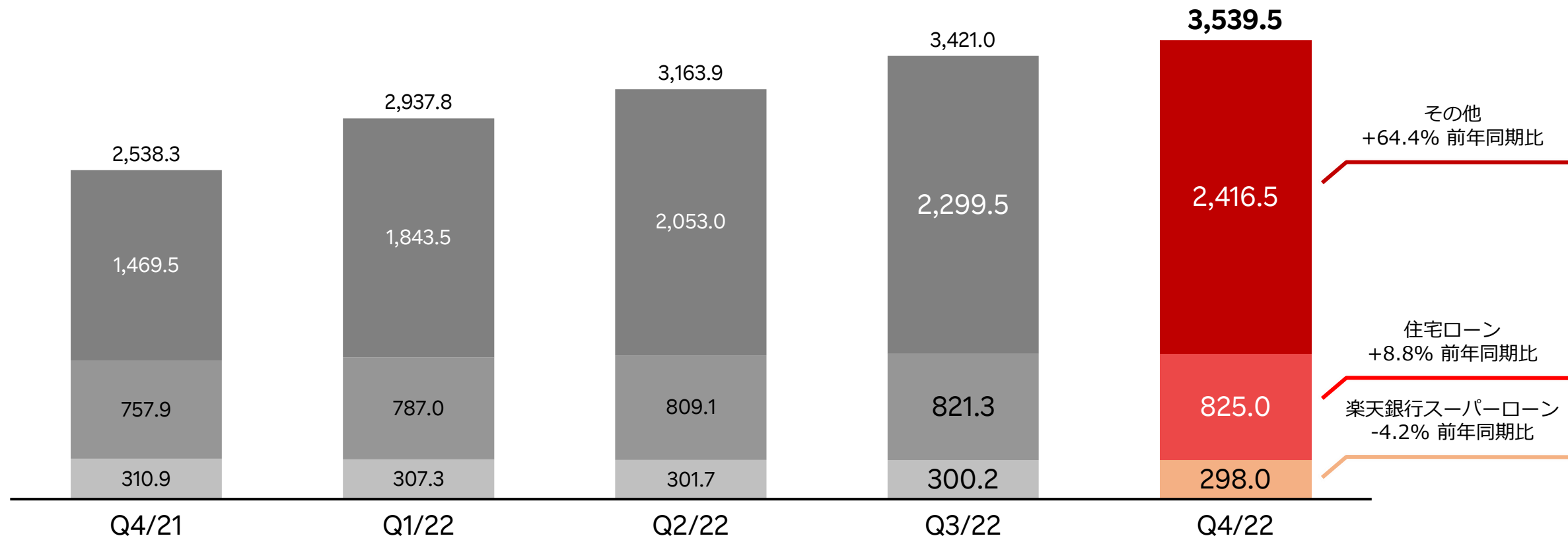


*1 預金残高はIFRSベース（定期預金は、特約定期預金のデリバティブを含む）。楽天銀行連結ベース。台湾における現地合併会社（楽天国際商業銀行股份有限公司）は、上記に含まない。

*2 その他預金には別段預金の他、外貨預金等を含む。

楽天銀行 貸出金残高推移*

(単位：十億円)

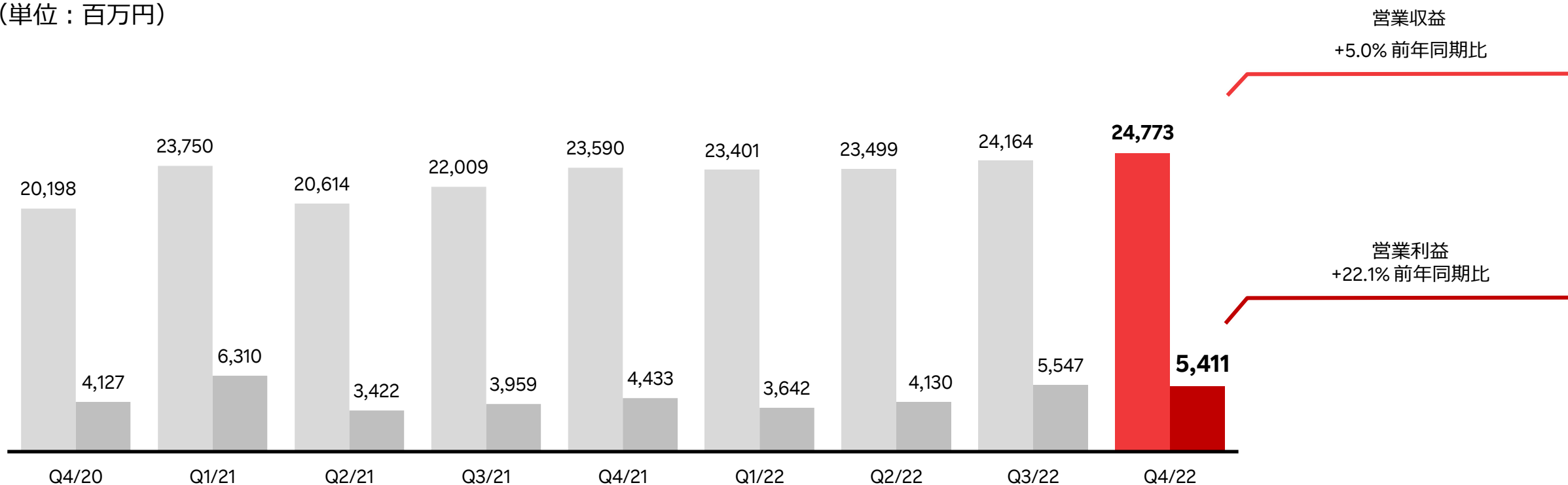


* 預金残高はIFRSベース。楽天銀行連結ベース。台湾における現地合併会社（楽天国際商業銀行股份有限公司）は、上記に含まない。

証券事業 四半期業績推移*

- 総合口座の堅調な推移などにより、営業収益は過去最高を更新
- プロモーション効率化などにより、営業利益も増加

(単位：百万円)

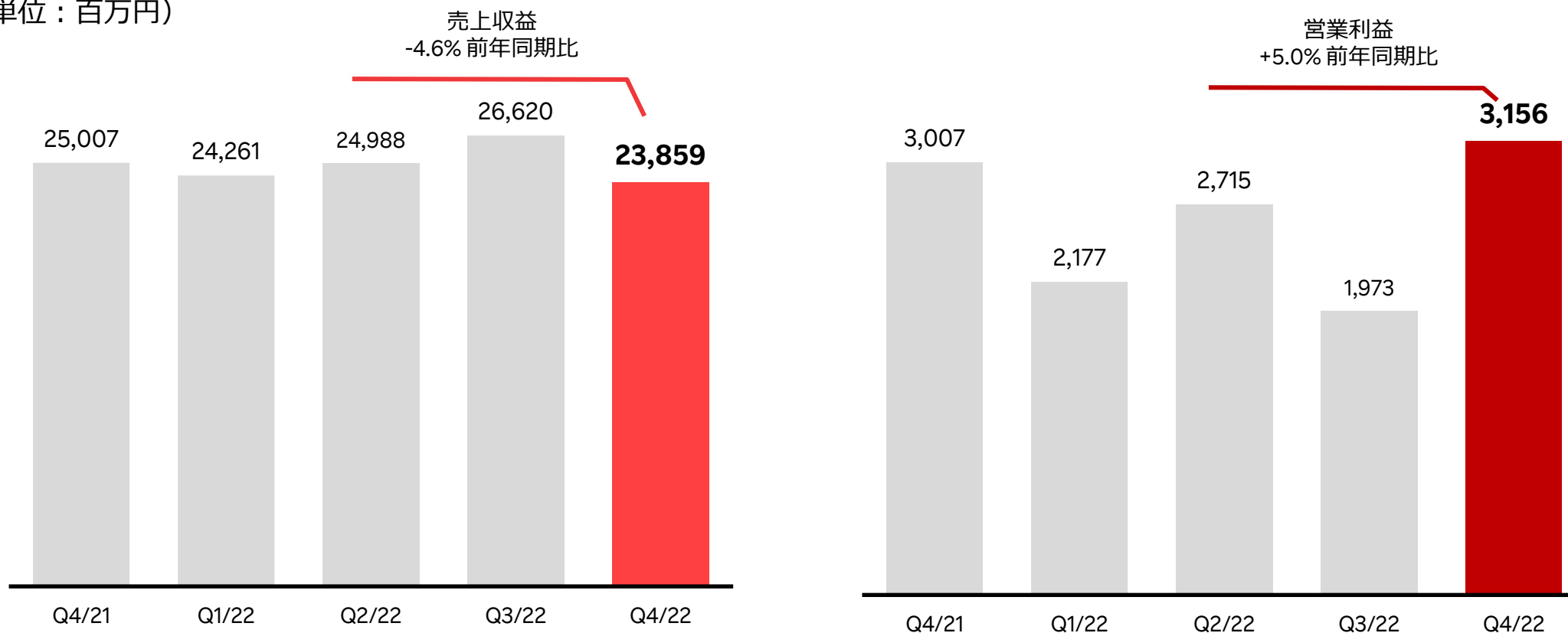


*証券事業は、楽天証券および連結海外子会社を含む。

楽天保険グループ 四半期業績推移*

- 生命保険において保険料等収入および資産運用収益は引き続き順調に拡大するも、保険グループ全体では再保険収入の影響により対前四半期および前年同期比では減少
- 新型コロナウイルスの影響を受けながらも、コスト効率化や損害保険におけるアンダーライティング強化等により、営業利益は改善を継続

(単位：百万円)

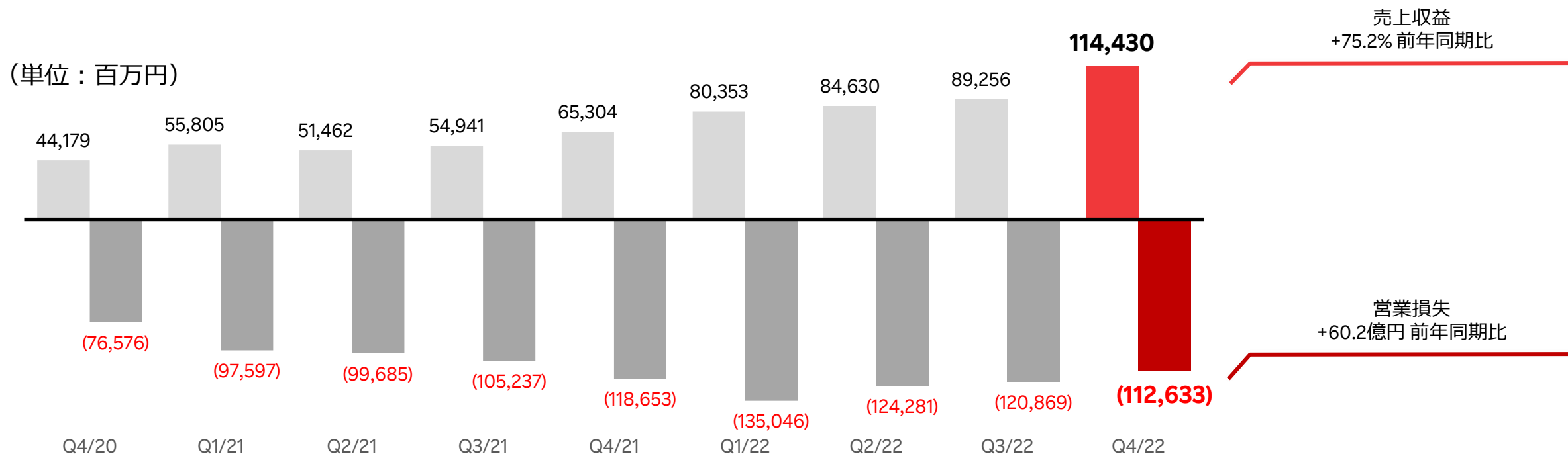


* 保険事業は、生命保険、損害保険、ペット保険、保険代理店を含む。

4 モバイル

モバイルセグメント 四半期業績推移*1*2

- 新料金プラン移行に伴いARPUが上昇。パートナー回線エリアから楽天回線エリア*3への切り替えによる費用削減効果もあり、損益は継続的に改善



*1 モバイルセグメントは楽天コミュニケーションズ、MNO事業、MVNE/O事業、エナジー事業、コンテンツ事業等により構成。

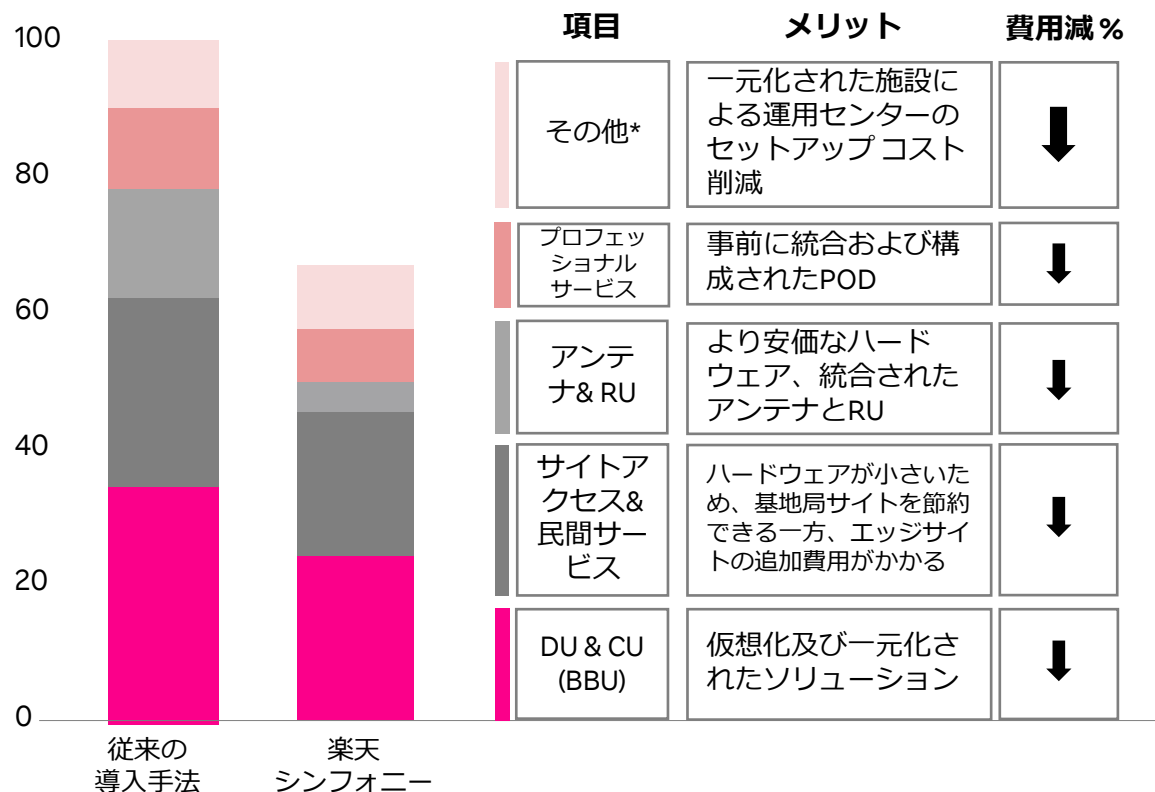
*2 Q2/21よりRakuten Kobo、Rakuten Viki、Rakuten Viber等の事業はインターネットサービスセグメントへ移動。

*3 電波発射済基地局数：52,003 契約締結済基地局数：16,603 (2022年12月末時点)

楽天モバイルの価格優位性を支えるコスト構造

- 完全仮想化ネットワークによりコスト削減に貢献、持続可能で競争力のある価格設定が可能に
- 楽天シンフォニーは楽天モバイルの更なるコスト削減に貢献可能

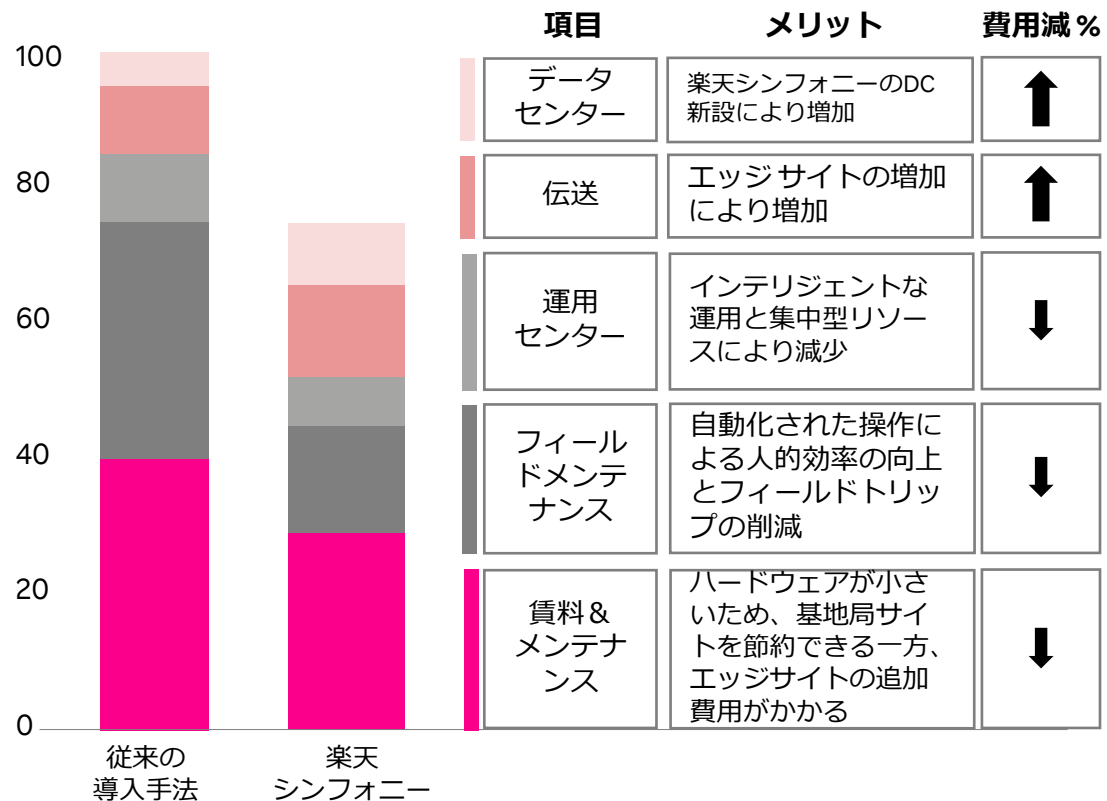
CAPEX 40%減



*OSS、スイッチ、ルーター、ネットワーク運用のセットアップ、およびその他の消耗品への投資を含む。



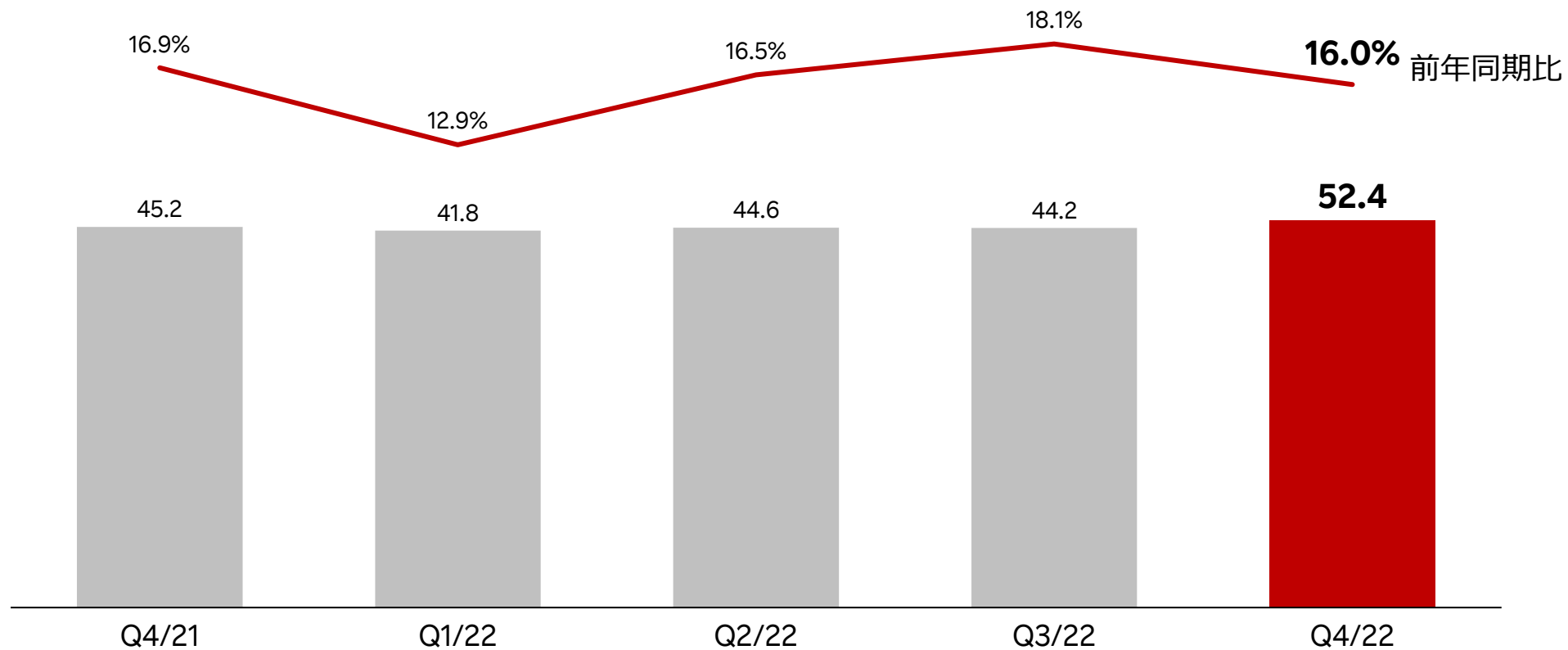
OPEX 30%減



5 広告事業

広告事業 売上収益*

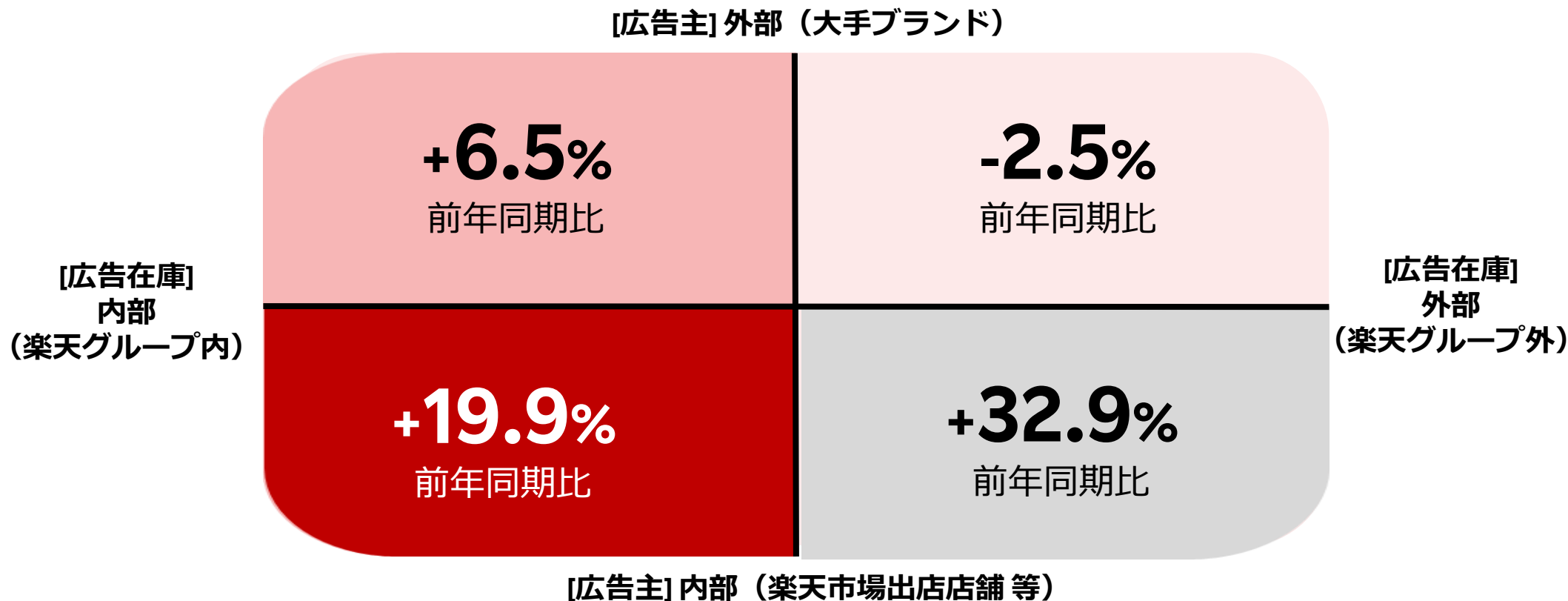
(単位：十億円)



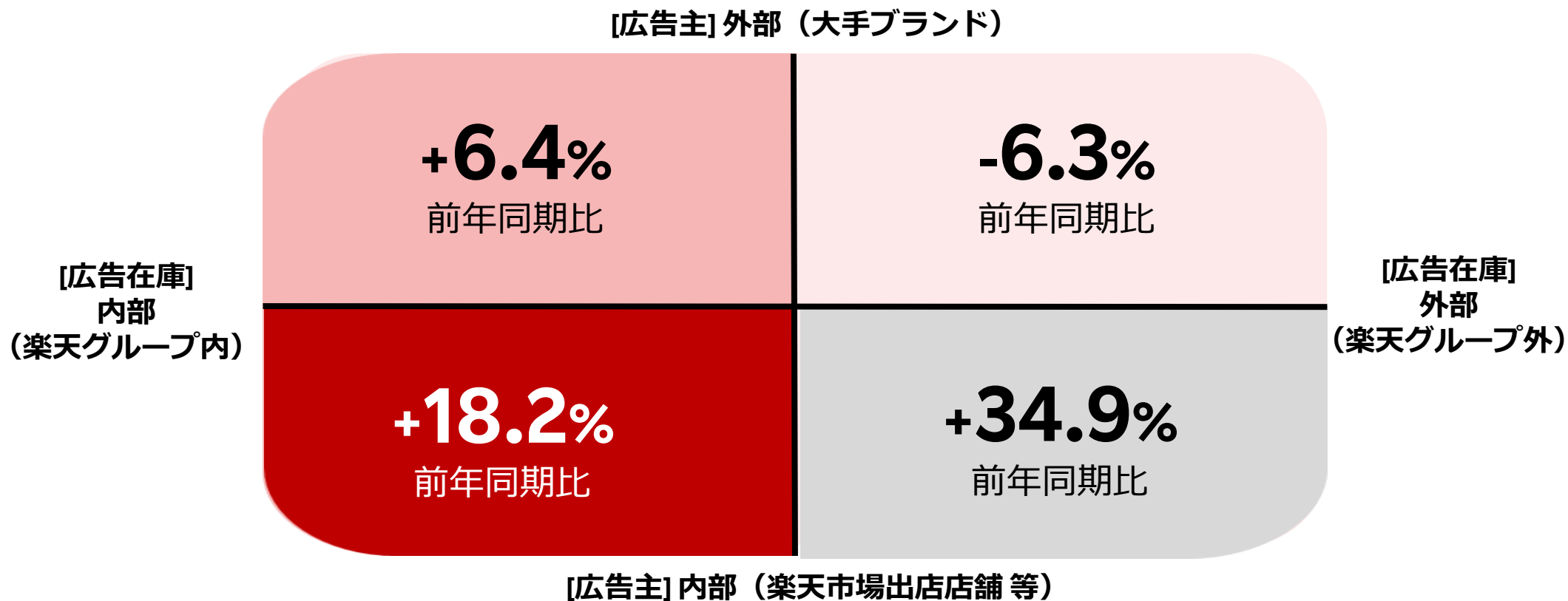
*内部取引含む取扱高。

広告事業 FY2022 成長率分析

- 堅調な成長を遂げている楽天市場や、コロナ規制緩和に伴う楽天トラベルの回復などの影響により、楽天グループ内における広告売上高が順調に拡大



広告事業 Q4/22 成長率分析



アド&マーケティングカンパニーへの統合

- 今年よりコマースカンパニーとアド&マーケティングカンパニーの統合を実施。また、アド&マーケティングカンパニーは更なるユーザー及びクライアントの満足度向上のための組織体制を改新

コマースカンパニーとアド&マーケティングカンパニーの統合

Rakuten GORA **Rakuten** Rakuten Travel



本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご了承ください。文中に記載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。